

ZENworks 2020 Update 2 アップグレードガイド

2021年8月

保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許ポリシー、および FIPS コンプライアンスの詳細については、<https://www.novell.com/company/legal/> を参照してください。

Copyright © 2008 - 2021 Micro Focus Software Inc. All rights reserved.

Micro Focus、関連会社、およびライセンサ (「Micro Focus」) の製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属する保証書に明示的に規定されたものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。Micro Focus は、本書に技術的または編集上の誤りまたは不備があっても責任を負わないものとします。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

目次

| | |
|---|-----------|
| このガイドについて | 5 |
| 1 プライマリサーバのアップグレードまたは移行 | 7 |
| プライマリサーバのアップグレードまたはマイグレーションプロセスの変更 | 7 |
| アップグレードインストーラの理解 | 11 |
| アップグレード順序について | 12 |
| ZENworks サーバでのメモリ要件の調整 | 14 |
| 2 Linux と Windows プライマリサーバの ZENworks 2020 Update 2 へのアップグレード | 17 |
| 前提条件 | 17 |
| Linux サーバの場合 | 17 |
| Windows サーバの場合 | 18 |
| Linux および Windows サーバの場合 | 18 |
| Docker のインストール | 20 |
| Docker Compose のインストール | 21 |
| Windows を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する | 22 |
| Linux を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する | 22 |
| プライマリサーバのアップグレード | 22 |
| GUI を使用した Linux および Windows サーバのアップグレード | 23 |
| コマンドラインを使用した Linux サーバのアップグレード | 32 |
| ZENworks 2020 Update 2 Lighthouse ビルドの ZENworks 2020 Update 2 FCS へのアップグレード | 34 |
| ZENworks 診断センターの実行によるデータベーススキーマの検証 | 35 |
| クリーンアップユーティリティの実行 | 37 |
| アップグレード後の環境設定 | 42 |
| トラブルシューティング | 43 |
| 3 アプライアンスのマイグレーション | 53 |
| 前提条件 | 53 |
| マイグレーションのための ZENworks 2020 アプライアンスの準備 | 54 |
| ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスの展開と設定 | 55 |
| ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスへの ZENworks 2020 データの移行 | 56 |
| 移行後 | 57 |
| 名前変更されたサービスとファイルの場所の表示 | 58 |
| ZENworks 2020 Update 2 Lighthouse アプライアンスの ZENworks 2020 Update 2 FCS への更新 | 59 |
| プライマリサーバの置き換え | 59 |
| プライマリサーバのアプライアンスへの移行 | 59 |
| クリーンアップユーティリティの実行 | 59 |
| 4 ZENworks 2020 Update 2 へのサテライトと管理対象デバイスの更新 | 61 |
| サテライトサーバまたは管理対象デバイスを更新するための前提条件 | 61 |
| ZENworks 2017 デバイスのアップグレードのサポート | 62 |

| | |
|---|-----------|
| サテライトサーバおよび管理対象デバイスの更新 | 62 |
| 5 Vertica 対応ゾーンのサーバのアップグレード | 63 |
| ベストプラクティス | 63 |
| Vertica 対応のゾーンでのアップグレード順序について | 63 |
| 前提条件 | 64 |
| 最初のプライマリサーバのアップグレード | 65 |
| 最初のプライマリサーバがアプライアンスサーバである場合 | 65 |
| 最初のプライマリサーバがアプライアンスサーバではない場合 | 67 |
| ゾーン内の他のサーバのアップグレード (アプライアンス) | 68 |
| ゾーン内の他のサーバのアップグレード (アプライアンス以外) | 69 |
| 例 | 70 |
| シナリオ 1 | 70 |
| シナリオ 2 | 70 |
| A マニュアルの更新 | 73 |
| 2021 年 5 月 : ZENworks 2020 Update 2 | 73 |

このガイドについて

このガイドには、ZENworks 2020 Update 2 で新しく強化された機能に関する情報と、このリリースへ正常にアップグレードする際に役立つ情報が記載されています。

このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ 7 ページの第 1 章「プライマリサーバのアップグレードまたは移行」
- ◆ 17 ページの第 2 章「Linux と Windows プライマリサーバの ZENworks 2020 Update 2 へのアップグレード」
- ◆ 53 ページの第 3 章「アプライアンスのマイグレーション」
- ◆ 61 ページの第 4 章「ZENworks 2020 Update 2 へのサテライトと管理対象デバイスの更新」
- ◆ 63 ページの第 5 章「Vertica 対応ゾーンのサーバのアップグレード」
- ◆ 73 ページの付録 A「マニュアルの更新」

対象読者

このガイドは、ZENworks 管理者を対象としています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインヘルプの各ページの下部にある、[comment on this topic] リンクを使用してください。

その他のマニュアル

ZENworks には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式の両方) も用意されています。

1 プライマリサーバのアップグレードまたは移行

ZENworks 2020 以上が使用されているプライマリサーバは、ZENworks 2020 Update 2 インストールメディアを使用して、直接 ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードまたは移行できます。

アップグレード中にアップグレードインストーラによって次の問題が報告される場合は、推奨手順に従って問題を解決してください。

- **サポートされていない ZENworks バージョン** : すべてのプライマリサーバを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードします。ゾーン内のすべてのプライマリサーバに、同じバージョンの ZENworks がインストールされていることを確認します。
- **サポートされていないオペレーティングシステム** : オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。

販売終了になったオペレーティングシステムの詳細については、『ZENworks 2020 Update 2 システム要件』を参照してください。

重要 : この ISO イメージを抽出してインストールに使用しないでください。インストールは、インストール DVD から実行する必要があります。

次の各セクションでは、ZENworks 2020 Update 2 へのアップグレードについて説明します。

- [7 ページの「プライマリサーバのアップグレードまたはマイグレーションプロセスの変更」](#)
- [11 ページの「アップグレードインストーラの理解」](#)
- [12 ページの「アップグレード順序について」](#)
- [14 ページの「ZENworks サーバでのメモリ要件の調整」](#)

プライマリサーバのアップグレードまたはマイグレーションプロセスの変更

ZENworks は、より堅牢で柔軟なアーキテクチャの採用と Micro Focus 標準との適合を目指しているため、ZENworks 2020 Update 2 リリースのアップグレードプロセスにいくつかの拡張機能が導入されました。ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードする手順は、基本的に以前のリリースバージョンと同じですが、このリリースで導入された重要な変更の一部は次のとおりです。

Linux サーバに Docker と Docker Compose をインストールする要件 : Linux プライマリサーバに ZENworks2020 Update 2 をアップグレードまたはインストールする前に、Docker と Docker Compose をサーバにインストールする必要があります。これはアプライアンスサーバには適用されません。Docker に関する詳細については、<https://docs.docker.com/> を参照してください。

サーバデータの新しいファイルパスへのマイグレーション : Windows、アプライアンス、または Linux プライマリサーバで ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードした後で、Novell ファイルパスの以前の MSI、RPM、ログ、設定ファイルなどの ZENworks サーバデータは、新しい Micro Focus ファイルパスに移動されます。

Antimalware データベースを設定する前にすべてのプライマリサーバをアップグレード : マルウェア対策は、ZENworks 2020 Update 2 以降の ZENworks Endpoint Security の新しいコンポーネントです。エンドポイントセキュリティ管理のマルウェア対策エンタイトルメントを有効にし、Antimalware データベースを設定する場合は、このデータベースを設定する前に、ゾーン内のすべてのプライマリサーバを更新する必要があります。

この要件は、Antimalware データベースを使用する場合にのみ適用されます。これは、ダッシュボードまたはデバイスのマルウェア対策ページからマルウェアのステータスとマルウェア対策エージェントのアクティビティを監視する場合に必要です。Antimalware データベースを設定しない限り、すべてのサーバをアップグレードしなくても、引き続きマルウェア対策を有効にし、マルウェア対策サーバとオンデマンドコンテンツマスタを設定し、マルウェア対策強制ポリシーを展開して、デバイスを保護することができます。

マルウェア対策の詳細については、『[ZENworks Endpoint Security Antimalware Reference](#)』を参照してください。

ZENworks サーバサービスの名前変更 : Windows、アプライアンス、または Linux プライマリサーバで ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードした後で、ZENserver サービス、ZENloader サービス、ZENjoinproxy サービスなどの特定の ZENworks サーバサービスの名前が Novell から Micro Focus に変更されます。

ZENworks 2020 Update 2 リリースのアップグレードプロセスで導入されたすべての変更のリストは次のとおりです。

| カテゴリの変更 | Linux およびアプライアンス上のプライマリサーバ | Windows 上のプライマリサーバ |
|---|--|---|
| 新しい前提条件 | <p>Docker v19.x 以降をインストールします (アプライアンスには適用されません)</p> <p>Docker Compose v1.28.x 以降をインストールします (アプライアンスには適用されません)</p> <p>(条件付き) 共有コンテンツリポジトリを使用している場合は、新しい Micro Focus の場所にそのコンテンツリポジトリをマウントします。例: /var/opt/microfocus/zenworks/content-repo</p> | <p>適用なし</p> <p>適用なし</p> <p>(条件付き) 共有コンテンツリポジトリを使用している場合は、新しい Micro Focus の場所にそのコンテンツリポジトリをマウントします。例: C:\Program Files (x86)\Micro Focus\zenworks\content-repo</p> |
| <p>ZENworks サーバサービスの名前変更</p> <p>注: このリリース以降、ZooKeeper は ZENserver サービス内ではなく、別個のサービスとして実行されます。</p> | <p>ZENworks サーバサービスはその名前の前に Novell ではなく Micro Focus が付くように名前変更されます。</p> <p>例:</p> <p>novell-zenserver service は microfocus-zenserver service に名前変更されました。</p> <p>novell-zenloader service は microfocus-zenloader service に名前変更されました。</p> <p>novell-zenjoinproxy service は microfocus-zenjoinproxy service に名前変更されました。</p> <p>注: ZENworks エージェントに関連するサービスは Novell の命名規則を保持します。たとえば、novell-zenworks-xplatzmd.service は名前変更されません。</p> <p>zenpostgresql.service も Novell の命名規則を保持します。</p> | <p>ZENworks サーバサービスはその名前の前に Novell ではなく Micro Focus が付くように名前変更されます。</p> <p>例:</p> <p>Novell ZENworks Server サービスは、Micro Focus ZENworks Server に名前変更されました。</p> <p>Novell ZENworks Join Proxy サービスは、Micro Focus ZENworks Join Proxy に名前変更されました。</p> <p>Novell ZENworks Services Monitor サービスは、Micro Focus ZENworks Services Monitor に名前変更されました。</p> <p>Novell ZENworks Loader サービスは、Micro Focus ZENworks Loader に名前変更されました。</p> <p>注: ZENworks エージェントに関連するサービスは Novell の命名規則を保持します。たとえば、Novell ZENworks Agent Service は名前変更されません。</p> <p>ZENworks Embedded Datastore-PostgreSQL も Novell の命名規則を保持します。</p> |

| カテゴリの変更 | Linux およびアプライアンス上のプライマリサーバ | Windows 上のプライマリサーバ |
|----------------------|---|--|
| サーバ関連のファイルとデータの新しい場所 | <p>サーバ関連のファイルとデータは新しい Micro Focus の場所で利用できるようになり、エージェント関連のファイルとデータは古い Novell の場所に保持されます。</p> <p>例：</p> <p>「ログファイル」：以前のログファイル (/var/opt/novell/logs/zenworks) は、/var/opt/microfocus/logs/zenworks で利用可能になりました。</p> <p>「設定ファイル」：以前の設定ファイル (/etc/opt/novell/zenworks) は、/etc/opt/microfocus/zenworks で利用可能になりました。</p> <p>「ライブラリ」：以前のライブラリ (/opt/novell/zenworks) は、/opt/microfocus/zenworks で利用可能になりました。</p> <p>注：ZENworks エージェントファイルの場所は古い Novell のファイルパスに保持されます。たとえば、ZENworks エージェントデータに関連する設定ファイルは、/etc/opt/novell/zenworks に保持されます。</p> | <p>サーバ関連のファイルとデータは新しい Micro Focus の場所で利用できるようになり、エージェント関連のファイルとデータは古い Novell の場所に保持されます。</p> <p>例：</p> <p>「ログファイル」：以前のログファイル (C:\Program Files (x86)\Novell\ZENworks\logs) は、C:\Program Files(x86)\Micro Focus\ZENworks\logs で利用可能になりました。</p> <p>「設定ファイル」：以前の設定ファイル (C:\Program Files (x86)\Novell\ZENworks\conf) は、C:\Program Files (x86)\Micro Focus\ZENworks\conf で利用可能になりました。</p> <p>「ライブラリ」：以前のライブラリ (C:\Program Files (x86)\Novell\ZENworks\lib) は、C:\Program Files (x86)\Micro Focus\ZENworks\lib で利用可能になりました。</p> <p>注：ZENworks エージェントファイルの場所は、Novell のファイルパスに保持されます。たとえば、ZENworks エージェントデータに関連する設定ファイルは、C:\Program Files (x86)\Novell\ZENworks\conf に保持されます。</p> |

| カテゴリの変更 | Linux およびアプライアンス上のプライマリサーバ | Windows 上のプライマリサーバ |
|-------------------|---|---|
| 新しい環境変数の導入 | 適用なし | 新しい Micro Focus ファイルパス C:\Program Files (x86)\Micro Focus\ZENworks を指す新しい環境変数 %ZENSERVENR_HOME% が導入されました。 既存の環境変数 %ZENWORKS_HOME% は、Novell ファイルパスに保持されている ZENworks エージェントデータにアクセスするために引き続き適用できます。 |
| 設定アクションの名前変更 | 設定アクションが Novell から Micro Focus に名前変更されました。ただし、Novell 命名規則に従う設定アクションは引き続き利用できます。 たとえば、設定アクション novell-zenworks-configure -c Start は、microfocus-zenworks-configure -c Start に名前変更されました。 | 設定アクションが Novell から Micro Focus に名前変更されました。ただし、Novell 命名規則に従う設定アクションは引き続き利用できます。 たとえば、設定アクション novell-zenworks-configure -c Start は、microfocus-zenworks-configure -c Start に名前変更されました。 |
| クリーンアップユーティリティの実行 | アップグレード後、ZENworks サーバ設定が古い Novell ファイルパスから新しい Micro Focus ファイルパスにコピーされます。ただし、ZENworks サーババイナリおよび古いファイルパスの古い設定は、アップグレードプロセス中に保持されます。保持されているサーバデータを削除するには、ビルドに付属しているクリーンアップユーティリティを実行できます。 詳細については、 39 ページの「Linux またはアプライアンスサーバでのクリーンアップユーティリティの実行」 を参照してください。 | アップグレード後、ZENworks サーバ設定が古い Novell ファイルパスから新しい Micro Focus ファイルパスにコピーされます。ただし、ZENworks サーババイナリおよび古いファイルパスの古い設定は、アップグレードプロセス中に保持されます。保持されているサーバデータを削除するには、ビルドに付属しているクリーンアップユーティリティを実行できます。 詳細については、 41 ページの「Windows サーバでのクリーンアップユーティリティの実行」 を参照してください。 |

アップグレードインストーラの理解

- ◆ Configuration Management、Asset Management、Asset Inventory、Endpoint Security Management、および Patch Management を含む、プライマリサーバ上の ZENworks 2020 Configuration Management コンポーネントをすべてアップグレードします。

- ◆ ZENworks データベースと Audit データベースをアップグレードします。これは、最初のサーバのアップグレード時に行われます。
- ◆ 最初のサーバを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードすると、システム更新を使用して、ZENworks のサテライトサーバのサポートされているバージョンおよび管理対象デバイスを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードできるようになります。

最初のプライマリサーバのアップグレードを完了するのに必要な時間は、データベースに格納されているデータのサイズによって変わります。

アップグレード順序について

ZENworks 2020 Update 2 のアップグレードタスクは、次の順序で実行してください。

1. **オペレーティングシステムのアップグレード**: デバイ스에インストールされているオペレーティングシステムが ZENworks でサポートされていない場合、オペレーティングシステムをサポートされている最新バージョンにアップグレードします。

サポートされているオペレーティングシステムの詳細については、『ZENworks 2020 Update 2 システム要件』を参照してください。

注: オペレーティングシステム (OS) および ZENworks アップグレードを実行する必要がある順序については、次のシナリオを参照してください。

- ◆ Windows プライマリサーバの場合: メジャーおよびマイナーインプレース OS アップグレードを実行できます。次のシナリオは、メジャーおよびマイナー OS アップグレードで従うアップグレード順序を明確に示しています。
 - ◆ ZENworks 2020 および ZENworks 2020 Update 2 でサポートされているバージョンへの OS アップグレードを実行するには、任意の順序で実行できます。例: Windows 2012 Server から Windows 2016 Server にアップグレードする場合は、OS と ZENworks のどちらを最初にアップグレードしてもかまいません。
 - ◆ ZENworks 2020 Update 2 でサポートされていないバージョンから OS アップグレードを実行するには、最初に OS をアップグレードしてから、ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードする必要があります。
 - ◆ ZENworks 2020 でサポートされていないが、2020 Update 2 でサポートされているバージョンへの OS アップグレードを実行するには、最初に ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードしてから OS をアップグレードする必要があります。
- ◆ Linux プライマリサーバの場合: メジャーインプレース OS アップグレードを実行できません。メジャーインプレースアップグレードを実行するには、より古い OS バージョンの現在のプライマリサーバを、サポートされている最新の OS バージョンの新しいプライマリサーバに置き換える必要があります。例: SLES 12 SP4 から SLES 15 にアップグレードする場合は、最初に ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードしてから、SLES 12 SP4 プライマリサーバを新しい SLES 15 プライマリサーバに置き換える必要があります。

ただし、マイナーインプレース OS アップグレードを実行できます。次のシナリオは、マイナー OS アップグレードで従うアップグレード順序を明確に示しています。

- ◆ ZENworks 2020 および ZENworks 2020 Update 2 でサポートされている OS バージョンへのマイナーアップグレードは、任意の順序で実行できます。例 : SLES 12 SP3 から SLES 12 SP4 にアップグレードする場合は、OS と ZENworks のどちらを最初にアップグレードしてもかまいません。
- ◆ ZENworks 2020 Update 2 でサポートされているが、ZENworks 2020 でサポートされていない OS バージョンからマイナー OS アップグレードを実行するには、最初に OS をアップグレードしてから、ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードする必要があります。例 : SLES 12 から SLES 12 SP4 にアップグレードする場合は、最初に OS を SLES 12 SP4 にアップグレードしてから、ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードする必要があります。
- ◆ ZENworks 2020 Update 2 でサポートされているが、ZENworks 2020 でサポートされていない OS バージョンからマイナー OS アップグレードを実行するには、最初に ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードしてから、OS をアップグレードする必要があります。例 : SLES 12 SP4 から SLES 12 SP5 にアップグレードする場合は、最初に ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードしてから、SLES 12 SP5 に OS アップグレードを実行する必要があります。

重要 : アップグレードを実行する前に、関連するサーバと CA をバックアップしてください。

2. ZENworks のアップグレード : ZENworks を最新バージョンにアップグレードします。

ゾーン内でプライマリサーバをアップグレードする順序は、次のとおりです。

- (条件付き) 組み込み PostgreSQL データベースにすでに移行している場合は、最初にデータベースをホストするデバイスをアップグレードしてから、他のプライマリサーバをアップグレードします。
 - (条件付き) 以前の ZENworks リリースの一部としてゾーン内で Vertica を有効にしている場合は、Vertica が有効になっているサーバをアップグレードしてから、他のプライマリサーバをアップグレードします。詳細については、[Vertica 対応ゾーンのサーバのアップグレード](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks 2020 Update 2 アップグレードインストーラでは、そのインストーラを実行するサーバのみをアップグレードできます。

注 : 最初のプライマリサーバを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードしたら、他のすべてのサーバを ZENworks 2020 Update 2 に直ちにアップグレードする必要があります。

- ◆ 管理ゾーンで初めてアップグレードを実行する場合、プライマリサーバは 1 つしかアップグレードできません。それ以降に他のプライマリサーバをアップグレードする場合は、並行してアップグレードすることも、好きな順序でアップグレードすることもできます。

最初のプライマリサーバをアップグレードする間は、他のすべてのプライマリサーバで ZENworks サービスを停止する必要があります。他のプライマリサーバをアップグレードする際、まだアップグレードされていないサーバのサービスは停止する必要があります。サービスを停止しない場合、データベースに一貫性がなくなる可能性があります。

注: スキーマおよびライセンス情報は最初のプライマリサーバのアップグレード中にのみ更新されます。

- ◆ 最初にプライマリサーバをアップグレードし、その後、ゾーン内のサテライトサーバとエージェントをアップグレードする必要があります。

重要: ゾーン内の他のプライマリサーバをアップグレードする場合、アップグレード済みの最初のプライマリサーバで ZENworks サーバサービスが実行されていることを確認してください。ゾーンで組み込み PostgreSQL を使用する場合、アップグレード済みの最初のプライマリサーバで組み込み PostgreSQL サービスが実行されている必要があります。

- ◆ ZENworks Reporting を使用している場合は、ゾーンを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードした後で、必ず ZENworks Reporting を再設定してください。詳細については、『[ZENworks Reporting アプライアンス展開および管理リファレンス](#)』の「[ZENworks Reporting アプライアンスの再設定](#)」を参照してください。

ZENworks サーバでのメモリ要件の調整

システム要件に基づき、ZENworks では、アプライアンスおよび非アプライアンスのプライマリサーバ両方に対して 16GB の最小メモリ要件をお勧めします。RAM サイズの要件に基づき、これらのコンポーネントがサーバで効果的に機能するには、RDBMS（組み込み PostgreSQL がインストールされている場合）、Vertica、Kafka、および ZENworks サービス (ZENserver および ZENloader サービス) にメモリが最適に割り当てられていることを確認する必要があります。ZENworks では、これらのプロセスに適切なメモリを自動的に調整する設定アクションを提供します。

サーバを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードした後で、この設定アクションを実行する必要があります。ただし、このサーバに Vertica をインストールする予定の場合は、Vertica を設定した後でのみ、この設定アクションを実行するようにしてください。詳細については、[Vertica リファレンスドキュメント](#)を参照してください。

このアクションが実行されるシナリオ：

- ◆ 組み込み PostgreSQL のみがインストールされる非アプライアンスサーバ
- ◆ 非アプライアンスの 2 番目のプライマリサーバ
- ◆ Kafka および Vertica がインストールされたアプライアンスサーバ
- ◆ Vertica のみがインストールされたアプライアンスサーバ
- ◆ 組み込み PostgreSQL および Vertica がインストールされたアプライアンスサーバ
- ◆ 組み込み PostgreSQL および Kafka がインストールされたアプライアンスサーバ

- ◆ Kafka のみがインストールされたアプライアンスサーバ
- ◆ 組み込み PostgreSQL、Kafka、および Vertica がインストールされたアプライアンスサーバ
- ◆ アプライアンスの 2 番目のプライマリサーバ

この設定アクションを実行するには：

1. サーバのコマンドラインユーティリティで、コマンド `microfocus-zenworks-configure -c CalibrateMemoryConfigureAction` を実行します。
2. 設定アクションが実行された後で、ZENworks サービスがサーバで自動的に再起動されることをユーザに通知するメッセージが表示されます。メモリ調整を続行する場合は、Enter キーを押して、デフォルト値 1 を選択するか、値 2 を入力します。
3. (条件付き) アプライアンスサーバで、サーバ上に Vertica および Kafka をインストールするかどうかを尋ねられます。このサーバ上に Vertica および Kafka をインストールする予定の場合は、サーバで Vertica を設定した後でのみ、このアクションを実行するようにしてください。アクションを終了するには、値 2 を入力します。

サーバに Vertica および Kafka をインストールせず、メモリ調整を続行する場合は、値 1 を入力します。

コンポーネントごとに新たに設定された値が表示されます。設定された値を後で表示する場合は、次の設定アクションを実行します。`microfocus-zenworks-configure -c DisplayMemoryConfigureAction`

2 Linux と Windows プライマリサーバの ZENworks 2020 Update 2 へのアップグレード

このセクションでは、Linux または Windows プライマリサーバを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードする方法について説明します。アプライアンスサーバを移行するには、[アプライアンスのマイグレーション](#)を参照してください。

前提条件

管理ゾーンで初めてプライマリサーバを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードする場合、アップグレードを実行する前に、次の作業を完了します。

Linux サーバの場合

- ◆ **Docker がインストールされている** : アップグレードしようとしているプライマリサーバに Docker v19.x 以降がインストールされている必要があります。Docker のインストールの詳細については、[Docker のインストール](#)を参照してください。
 - ◆ Docker サービスが常に有効になっていることを確認します。
 1. Docker サービスのステータスを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
$ sudo systemctl status docker.service
```
 2. サービスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
$ sudo systemctl enable docker.service
```
 - ◆ Docker サービスが開始されていることを確認します。サービスを開始するには、次のコマンドを実行します。

```
$ sudo systemctl start docker.service
```
- ◆ **Docker Compose がインストールされている** : アップグレードしようとしているプライマリサーバに Docker Compose v1.25.x 以降がインストールされている必要があります。Docker Compose の最新バージョンを確認するには、<https://github.com/docker/compose/releases> に移動します。Docker Compose のインストールの詳細については、[Docker Compose のインストール](#)を参照してください。
- ◆ **DNS サーバが設定されている** : アップグレードするプライマリサーバに DNS サーバが設定されていることを確認します。また、ローカルマシンのホスト名が DNS で解決できる必要があります。

- ◆ **Hibernate ログの無効化** : Linux プライマリサーバでは、アップグレードの前に、c3p0、ZENLoader 用の Hibernate ログ、および ZENServer が無効になっていることを確認します。詳細については、[TID 7015032 \(https://www.novell.com/support/kb/doc.php?id=7015032\)](https://www.novell.com/support/kb/doc.php?id=7015032) を参照してください。

Windows と Linux の両方に適用可能な残りの前提条件を表示するには、[Linux および Windows サーバの場合](#)を参照してください。

Windows サーバの場合

- ◆ **Windows インストーラバージョンの確認** : Windows プライマリサーバに、Windows インストーラ 4.5 以上のバージョンがインストールされていて、実行中であることを確認します。

Windows と Linux の両方に適用可能な残りの前提条件を表示するには、[Linux および Windows サーバの場合](#)を参照してください。

Linux および Windows サーバの場合

- ◆ **ZENworks 診断センター** : ゾーンをアップグレードする前に、ZDC を実行し、プライマリサーバと管理ゾーンのヘルスを確認します。詳細については、「[ZENworks 診断センター](#)」を参照してください。
- ◆ **アップグレードプロセスの変更の確認** : プライマリサーバをアップグレードする前に、ZENworks 2020 Update 2 リリースで導入された変更を確認してください。詳細については、[プライマリサーバのアップグレードまたはマイグレーションプロセスの変更](#)を参照してください。
- ◆ **(条件付き) 共有コンテンツリポジトリが新しい場所にマウントされている** : 共有コンテンツリポジトリの場合は、リポジトリを古いパスからアンマウントし、リポジトリを新しい Micro Focus パス、つまり、Linux サーバの場合は `/var/opt/microfocus/zenworks/content-repo`、Windows サーバの場合は `%ZENSERVER_HOME%\work\content-repo` にマウントしていることを確認します。

novell パスの content-repo フォルダは管理者が名前変更したり、削除したりしないでください。

- ◆ **システム要件の確認** : ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードしたいプライマリサーバが『[ZENworks 2020 Update 2 システム要件](#)』をすべて満たしているか確認します。詳細については、『[ZENworks サーバインストールガイド](#)』の「[データベースの要件](#)」を参照してください。
- ◆ **ZENworks データベース** : ZENworks データベースをバックアップします。
また、データベースをホストしているサーバが、アクティブなデータベースで実行されていることを確認します。外部データベースの前提条件の詳細については、『[ZENworks サーバインストール](#)』の「[外部データベースの前提条件](#)」を参照してください。

- ◆ **ZENworks サーバのバックアップ**: アップグレードする ZENworks プライマリサーバの設定ファイルをバックアップします。詳細については、『[ZENworks Disaster Recovery Reference](#)』の「[Backing Up and Restoring the ZENworks Server and Certificate Authority](#)」を参照してください。
- ◆ **テスト環境でのアップグレードの実行**: 最初のプライマリサーバのアップグレードを完了するのに必要な時間は、データベースに格納されているデータのサイズによって変わります。Microsoft SQL または Oracle データベースを使用しているデバイスで最初のプライマリサーバをアップグレードする場合、テスト環境 (運用環境と同様のサーバデータを用意する) でアップグレードを実行します。これは、運用サーバの停止時間を算出するためです。
- ◆ **CPU 使用率とメモリ使用率**: 最初のプライマリサーバのアップグレード中に CPU 使用率またはメモリ使用率が上昇しないことを確認します。
- ◆ **ZENworks サービスの停止**: アップグレード中にデータベースがアクセスされないように、アップグレードされていないプライマリサーバ上の ZENworks サービスをすべて停止します。停止しないと、データベースに一貫性がなくなる可能性があります。
 - ◆ ZENworks サービスの停止については、次のマニュアルを参照してください。
 - ◆ **Windows プライマリサーバの場合**: 『[ZENworks プライマリサーバおよびサテライトリファレンス](#)』の「[ZENworks Services on a Windows Server](#)」を参照してください。
 - ◆ **Linux プライマリサーバの場合**: 『[ZENworks プライマリサーバおよびサテライトリファレンス](#)』の「[ZENworks Services on a Linux Server](#)」を参照してください。

最初のサーバをアップグレードすると、ZENworks サテライトサーバと管理対象デバイスの ZENworks 2020 Update 2 へのアップグレードに、システム更新を使用できるようになります。

- ◆ **時刻の同期**: サーバとデータベースの時刻が同期されていることを確認します (時刻のずれが 2 分未満である必要があります)。

注:

- ◆ 時刻のずれが 2 分以上 24 時間未満の場合、アップグレード中に警告メッセージが表示されます。
 - ◆ 時刻のずれが 24 時間を超えている場合、エラーメッセージが表示されます。
-
- ◆ **ポートの確認**: アップグレード中に固定ポートがすべて開放されていることを確認します。固定ポートがブロックされていると、アップグレードを続行できません。ポートのリストについては、『[ZENworks 2020 Update 1 TCP and UDP Ports](#)』を参照してください。

ZENworks アップグレードソフトウェアを ISO イメージのダウンロードとして入手した場合、次のいずれかを実行してアップグレード DVD を作成します。

- ◆ [Windows を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する](#)
- ◆ [Linux を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する](#)

重要 : ISO イメージを抽出して ZENworks のアップグレードに使用することはしないでください。

Docker のインストール

このセクションで詳しく説明する手順により、最新バージョンの Docker をダウンロードできます。

- 1 Suse Customer Center に登録した後で、プライマリサーバのオペレーティングシステムバージョンの登録キーを生成し、[Suse Customer Center](#) でデバイスを登録します。
- 2 YaST を起動します。
- 3 [Administrator Settings (管理者の設定)] ウィンドウで、[ソフトウェア]>[Software Repositories (ソフトウェアリポジトリ)] を選択します。
- 4 [追加] をクリックして、[Add On Product (製品に追加)] ダイアログボックスを開きます。
- 5 [Extensions and Modules from the Registration Server... (登録サーバから拡張機能とモジュール ...)] を選択します。[次へ] をクリックします。
- 6 [Available Extensions and Modules (使用可能な拡張機能とモジュール)] リストから、プラットフォームバージョンに基づいて、次のコンテナモジュールのいずれかを選択します。[次へ] をクリックして、ウィザードを [完了] します。モジュールとそのリポジトリがシステムに追加されます。
 - ◆ SLES 12 SP3、SLES 12 SP4、SLES 12 SP5: [Containers Module 12 x86_64]
 - ◆ SLES 15: [Containers Module 15 x86_64]
 - ◆ SLES 15 SP1: [Containers Module 15 SP1 x86_64]
- 7 Linux の端末で、次のコマンドを実行して、Docker パッケージをインストールします。

```
$ sudo zypper install docker
```

注 : zypper install docker コマンドで Docker をインストールできない場合は、次のコマンドを実行して、コンテナモジュールがリポジトリに追加されているかどうかを確認します。

```
$ sudo zypper ls
```

コンテナモジュールが追加されていない場合は、次のコマンドを実行して、コンテナモジュールを追加します。

SLES 12 SP3、SLES 12 SP4、SLES 12 SP5 の場合 :

```
$ sudo SUSEConnect -p sle-module-containers/12/x86_64
```

SLES 15 の場合 :

```
$ sudo SUSEConnect -p sle-module-containers/15/x86_64
```

Sles 15 SP1 の場合 :

```
$ sudo SUSEConnect -p sle-module-containers/15.1/x86_64
```

- 8 次のコマンドを実行して、Docker サービスを有効にします。

```
$ sudo systemctl enable docker.service
```

- 9 次のコマンドを実行して、Docker サービスを開始します。

```
$ sudo systemctl start docker.service
```

- 10 次のコマンドを実行して、Docker が適切にインストールされているかどうかをテストします。

```
$ docker run hello-world
```

Hello from Docker! というメッセージが表示される場合は、Docker が正常にインストールされていることを示します。

注: Docker をインストールした後で、Docker バージョンをアップグレードする場合は、アップグレード後に ZENworks サーバサービスを再起動してください。

Docker Compose のインストール

Docker Compose をインストールする前に、前のセクションで説明したように、Docker エンジンがすでにインストールされていることを確認してください。

- 1 Linux の端末で、次のコマンドを実行して、Docker Compose の最新リリース、この場合は Docker Compose バージョン 1.28.2 をダウンロードします。

```
$ sudo curl -L "https://github.com/docker/compose/releases/download/1.28.2/docker-compose-$(uname -s)-$(uname -m)" -o /usr/local/bin/docker-compose
```

注: サーバがインターネットにアクセスできず、プロキシサーバ経由で通信している場合は、プロキシを使用するように curl を設定する方法について、curl のマニュアルページを参照してください。

- 2 次のコマンドを実行して、実行許可をバイナリに適用します。

```
$ sudo chmod +x /usr/local/bin/docker-compose
```

注: インストール後に docker-compose コマンドが失敗する場合は、パスを確認してください。/usr/bin またはパスの他のディレクトリへのシンボリックリンクを作成することもできます。

例:

```
$ sudo ln -s /usr/local/bin/docker-compose /usr/bin/docker-compose
```

- 3 次のコマンドを実行して、インストールをテストします。Docker Compose バージョンが表示されます。

```
$ docker-compose --version
```

注 : Docker Compose の最新リリースバージョンは、<https://github.com/docker/compose/releases> で公開されています。最新リリースにアップグレードするには、[Linux] タブ (<https://docs.docker.com/compose/install/>) に表示される手順に従います。ただし、Docker Compose を最新バージョンにアップグレードする前に、ZENworks サービスを停止してください。これらのサービスの停止に関する詳細については、「[Stopping the ZENworks Services](#)」を参照してください。

Windows を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する

- 1 ZENworks アップグレード ISO イメージを [Micro Focus ダウンロードサイト](#) から Windows デバイスの一時保管場所にダウンロードします。
- 2 ISO イメージを DVD に記録します。

Linux を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する

- 1 ZENworks アップグレード ISO イメージを [Micro Focus ダウンロードサイト](#) から Linux デバイスの一時保管場所にダウンロードします。
- 2 次のコマンドを使用して ISO イメージをマウントします。

```
mount -o loop /tempfolderpath/isoimagename.iso mountpoint
```

tempfolderpath を一時フォルダのパスと置き換えて、*isoimagename* を ZENworks ISO ファイル名と置き換え、*mountpoint* をイメージをマウントするファイルシステムの場所へのパスと置き換えます。*mountpoint* によって指定されたパスはすでに存在している必要があります。

たとえば、次のようにします。

```
mount -o loop /zcm11/ZCM11upgr.iso /zcm11/upgrade
```

プライマリサーバのアップグレード

アップグレードには、グラフィカルユーザインタフェース (GUI) プログラムまたはコマンドライン (Linux のみ) を使用できます。

- 23 ページの「GUI を使用した Linux および Windows サーバのアップグレード」
- 32 ページの「コマンドラインを使用した Linux サーバのアップグレード」
- 34 ページの「ZENworks 2020 Update 2 Lighthouse ビルドの ZENworks 2020 Update 2 FCS へのアップグレード」
- 35 ページの「ZENworks 診断センターの実行によるデータベーススキーマの検証」
- 37 ページの「クリーンアップユーティリティの実行」
- 42 ページの「アップグレード後の環境設定」

注: ゾーンをアップグレードすると、最初に更新されたプライマリサーバで ZooKeeper が有効になります。詳細については、[アップグレード後の環境設定](#)を参照してください。

重要

- ◆ プライマリサーバの ZENworks 2020 Update 2 へのアップグレードには、ZENworks システム更新を使用しないでください。

Windows デバイスでは、ZENworks サーバをアップグレードする前に Windows Update を実行して、使用可能な更新がデバイスにすべてインストールされていることを保証します。Windows Update を一度実行した後は無効にして、デバイスの ZENworks サーバのアップグレード中にそれ以上更新が行われないことを保証します。ZENworks をアップグレードした後、Windows Update を有効にできます。

- ◆ Linux Update を無効にして、デバイスの ZENworks サーバのアップグレード中にそれ以上更新が行われないことを保証します。
-

GUI を使用した Linux および Windows サーバのアップグレード

前提条件をすべて満たしている場合、ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードするプライマリサーバで、次の手順を実行します。

- 1 次の手順で、ZENworks アップグレードプログラムを起動します。
 - ◆ **Linux:** 次を実行します。
 1. [Micro Focus ダウンロードサイト](#)から ZENworks アップグレード ISO イメージをダウンロードします。
 2. コマンド `mount -o loop <名前を含む ISO パス> <mount_path>` を実行して、ISO をマウントします。
 3. `cd` をマウントし、次を実行します: `/setup.sh`.
 - ◆ **Windows:** 次のいずれかの操作を行います。
 1. [Micro Focus ダウンロードサイト](#)から ZENworks アップグレード ISO イメージをダウンロードします。
 2. ISO をマウントします。
 3. `setup.exe` を実行します。
 4. DOS ウィンドウを開き、ZENworks 2020 Update 2 インストールメディアのルートまでブラウズし、`setup.exe` コマンドを入力します。
- 2 アップグレード中に、[24 ページの表 2-1 「アップグレード情報」](#)でアップグレードデータの詳細を参照します。

GUI アップグレードを使用している場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックして同様の情報を参照することもできます。

3 Windows デバイスで次のいずれかを実行します :

- ◆ 自動的に再起動するように選択した場合は (アップグレード時に [はい、システムを再起動します] オプションを選択した場合。29 ページの「[サーバの再起動 \(Windows の場合のみ\)](#)」参照)、起動プロセスが完了してサービスが開始したら、[ステップ 5](#)に進みます。
- ◆ 手動で再起動するように選択した場合は (アップグレード時に [いいえ、システムを後で手動で再起動します] オプションを選択した場合。29 ページの「[サーバの再起動 \(Windows の場合のみ\)](#)」を参照)、アップグレードが完了してサービスを開始するまで待機し、確認します。

4 アップグレード後、ZENworks サーバデータが古い Novell ファイルパスから新しい Micro Focus ファイルパスにコピーされます。ただし、古いファイルパスの ZENworks サーバデータは、アップグレードプロセス中に保持されます。アップグレードされたバージョンの ZENworks サーバが期待どおりに動作しているか確認したら、ビルドに付属しているクリーンアップユーティリティを実行して、保持されているサーバデータを削除できます。詳細については、[Linux またはアプライアンスサーバでのクリーンアップユーティリティの実行](#)を参照してください。

5 他のプライマリサーバをアップグレードするには、[ステップ 1](#)から繰り返します。

重要 : 管理ゾーン内のプライマリサーバがすべてアップグレードされるまで、これらの手順を繰り返してください。

注 : ZENworks Reporting を使用している場合は、ゾーンを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードした後で、必ず ZENworks Reporting を再設定してください。詳細については、『ZENworks Reporting [アプライアンス展開および管理リファレンス](#)』の「ZENworks Reporting [アプライアンスの再設定](#)」を参照してください。

24 ページの [表 2-1](#) に、ZENworks 2020 から ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードするためのアップグレード情報を示します。

表 2-1 アップグレード情報

| アップグレード情報 | 説明 |
|-----------|---------------------------------------|
| 使用許諾契約 | 使用許諾契約に同意しない場合、アップグレードインストーラは続行されません。 |

| アップグレード情報 | 説明 |
|---------------------------|---|
| ZENworks 前提条件 | <p>必要な前提条件が満たされていない場合、アップグレード手順は続行されません。満たされていない前提条件は、GUIに表示されるか、またはコマンドラインに一覧にされます。詳細については、前提条件を参照してください。</p> <p>.NET 前提条件が満たされていない場合は、説明内の [ZENworks] リンクをクリックして、ZENworks にバンドルされているランタイムバージョンをインストールすることができます。.NET 4.5 フレームワークとそのすべての最新アップデートをインストールしたか確認します。.NET のインストール後、ZENworks アップグレードが続行します。</p> <p>注:.NET 4.5 のインストール後、デバイスを再起動する必要があります。</p> |
| Upgrade Type(アップグレードタイプ) | <p>管理ゾーンで最初にアップグレードするプライマリサーバの場合は [はい] を、それ以外の場合は [いいえ] を選択します。</p> <p>[はい] を選択すると、ゾーン管理者の資格情報の入力を求められます。</p> <p>または</p> <p>[いいえ] を選択した場合は、30 ページの表 2-2 「アップグレード情報 - 他のプライマリサーバのアップグレード」で説明する手順を実行します。</p> |

| アップグレード情報 | 説明 |
|-----------|----|
|-----------|----|

| | |
|------------------|--|
| データベースのパーズ ング | |
|------------------|--|

最初のプライマリサーバのアップグレードを完了するのに必要な時間は、データベースに格納されているデータのサイズによって変わります。Microsoft SQL または Oracle Enterprise データベースを使用しているプライマリサーバでは、アップグレードインストーラによって、パーズできる不要なインベントリデータのサイズがチェックされます。パーズするレコードの件数が 200,000 を超える場合、プライマリサーバのアップグレード前にデータベースをパーズするオプションが表示されます。他のデータベースタイプでは、パーズするレコードの件数が 200,000 未満の場合、このページは表示されません。

- ◆ **今すぐデータベースをパーズする** : このオプションを選択すると、ウィザードによってデータベースのパーズが継続されます。データベースがパーズされたら、アップグレードプロセスを再開します。

次のパーズ設定を指定します。

- ◆ **x 日間経過した削除済みの製品とコンポーネントをパーズする** :
製品とコンポーネントのデータを削除してからパーズするまでの日数を指定します。デフォルトは 180 日です。
- ◆ **x 日間経過したインベントリ履歴データをパーズする** : インベントリ履歴データをパーズするまでの日数を指定します。デフォルトは 180 日です。
- ◆ **x 日間経過したソフトウェアアプリケーション使用率データをパーズする** : Asset Management 用に収集されたソフトウェアアプリケーションの使用率データをパーズするまでの日数を指定します。デフォルトは 180 日です。
- ◆ **x 日間経過したネットワークソフトウェア使用率データをパーズする** : Asset Management 用に収集されたネットワークソフトウェアの使用率データをパーズするまでの日数を指定します。デフォルトは 180 日です。
- ◆ **x 日間経過した Web アプリケーション使用率データをパーズする** : Asset Management 用に収集された Web アプリケーションの使用率データをパーズするまでの日数を指定します。デフォルトは 180 日です。

重要 : パーズ処理が中断された場合、データベースが矛盾した状態になるおそれがあります。

- ◆ **Continue without purging the database (データベースをパーズしないで継続する)** : このオプションを選択すると、ウィザードによってアップグレードプロセスが継続されます。
-

| アップグレード情報 | 説明 |
|-----------------|---|
| ZENworks 診断センター | <p>ZENworks 診断センターを使用して、データベースを検証します。不一致が見つかった場合は、エラーが ZDC レポートに記録されます。</p> <p>エラーレポートは次の場所で利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows の場合 : %ZENSERVER_HOME%\logs\migration\zdc\reports ◆ Linux の場合 : /var/opt/microfocus/log/zenworks/migration/zdc/reports |
| | <p>注: データベースの検証は、最初のプライマリサーバを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードする前に実行してください。それ以降のサーバのアップグレードでは、データベースの検証を求めるプロンプトは表示されません。</p> |
| アップグレード前のタスク | <p>他のすべてのプライマリサーバ上のすべての ZENworks サービスが停止されていることを確認します。他のプライマリサーバ上でサービスが停止されていない場合は、アップグレードを続行できません。</p> <p>Linux サーバの場合は、Docker と Docker Compose がインストールされていて、そのサービスが有効で実行されていることを確認します。詳細については、前提条件を参照してください。</p> <p>ZENworks データベースおよび他の重要なデータの完全なバックアップを取っていることを確認します。</p> <p>必要なアクションを実行した後で、表示されるチェックボックスを選択します。</p> |
| アップグレード前の概要 | <p>概要には次のフィールドが表示されます。</p> <p>ゾーン名: このサーバが属する管理ゾーンの名前が表示されます。</p> <p>情報を変更するには、[前] をクリックします。</p> |
| アップグレードプロセス | <p>ハードウェアの能力およびデータベース内のデータサイズによっては、アップグレードプロセスには数分かかります。</p> |

| アップグレード情報 | 説明 |
|-----------|----|
|-----------|----|

| | |
|------------|--|
| アップグレードエラー | アップグレード中にエラーが発生した場合は、このページが表示されま す。詳細については、次の場所にあるログファイルを参照してください。 エラーを解決して、アップグレードを再開します。 |
|------------|--|

Windows の場合 : 古い Novell ファイルパスのログを確認できます。アッ
プグレードプロセスが再開されたら、新しい Micro Focus ファイルパスの
ログを確認します。

「Novell ファイルパス」 :

- ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\loader-messages.log
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\system-update-import.log
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\system-update\<更新 GUID>
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\pre-global-actions.log
 - ◆ %WINDOWS_SYSTEM_DRIVE%\tmp\err.log

「Micro Focus ファイルパス」 :

- ◆ %ZENSERVER_HOME%\logs
 - ◆ %ZENSERVER_HOME%\logs\ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml
 - ◆ %ZENSERVER_HOME%\logs\loader-messages.log
 - ◆ %ZENSERVER_HOME%\logs\system-update-import.log
-

| アップグレード情報 | 説明 |
|-----------|----|
|-----------|----|

Linux の場合 : 古い Novell ファイルパスのログを確認できます。アップグレードプロセスが再開されたら、新しい Micro Focus ファイルパスのログを確認します。

「Novell ファイルパス」

- ◆ /var/opt/novell/log/zenworks
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/system-update/<更新GUID>
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/loader-messages.log
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/system-update-import.log
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/pre-global-actions.log
 - ◆ /tmp/err.log

「Microfocus ファイルパス」

- ◆ /var/opt/microfocus/log/zenworks
 - ◆ /var/opt/microfocus/log/zenworks/ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml

アップグレード後のアクション : ZENworks システムステータスユーティリティの実行

アップグレードプログラムを終了する前に、ZENworks システムステータスユーティリティを実行して、ZENworks サービスのハートビートチェックを起動するように選択します。結果はアップグレードログファイルに記録されます。

アップグレード後のアクション : クリーンアップユーティリティの実行

アップグレード後、ZENworks サーバ設定が古い Novell ファイルパスから新しい Micro Focus ファイルパスにコピーされます。ただし、ZENworks サーババイナリおよび古いファイルパスの古い設定は、アップグレードプロセス中に保持されます。アップグレードされたバージョンの ZENworks サーバが期待どおりに動作しているか確認したら、ビルドに付属しているクリーンアップユーティリティを実行して、保持されているサーバデータを削除できます。詳細については、[Linux またはアプライアンスサーバでのクリーンアップユーティリティの実行](#)を参照してください。

サーバの再起動 (Windows の場合のみ)

Windows プライマリサーバでアップグレードが成功したら、すぐに再起動するか、後で再起動するか選択できます。

- ◆ **はい、システムを再起動します** : このオプションを選択すると、サーバが再起動されアップグレード処理が完了します。
- ◆ **いいえ、システムを後で手動で再起動します** : このオプションを選択すると、サーバの次回再起動時にアップグレード処理が完了します。

重要 : サーバを再起動し、アップグレード処理を完了します。

| アップグレード情報 | 説明 |
|------------|--|
| アップグレードの完了 | 次のアクションを含め、前に選択したアクションが実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks データベースをアップグレードする(最初のプライマリサーバのアップグレード時に実行)。 ◆ プライマリサーバにインストールされている ZENworks コンポーネントすべてのアップグレード。 ◆ ゾーンへのシステム更新のインポート(ゾーン内の管理対象デバイスのアップグレードが可能になる)。 |

表 2-2 アップグレード情報-他のプライマリサーバのアップグレード

| インストール情報 | 説明 |
|---|--|
| Primary Server and Zone Credentials(プライマリサーバおよびゾーン資格情報) | アップグレード済みのプライマリサーバ、ゾーン資格情報、および SSL ポート番号の詳細の入力を求められます。 |
| ZENworks Database Details(ZENworks データベース詳細) | (条件付き) デバイスが、アップグレード済みのプライマリサーバ経由でデータベースに接続できない場合、データベースに直接接続するための詳細の入力を求められます。 |
| ポート番号 | ファイアウォールによってブロックされている可能性があるポートをいくつか開く必要があります。今すぐポートを開くことも、後で手動で開くこともできます。 |
| アップグレード前の概要 | <p>警告: [アップグレード前の概要] ページが表示される前に、サーバ上の ZENworks サービスは停止します。この時点でアップグレードをキャンセルした場合、手動で ZENworks サービスを再開する必要があります。</p> <p>概要には次のフィールドが表示されます。</p> <p>ZENworks ホームディレクトリ: アップグレードする ZENworks ソフトウェアがインストールされているプライマリサーバ上の場所が表示されます。</p> <p>ゾーン名: このサーバが属する管理ゾーンの名前が表示されます。</p> |
| アップグレードプロセス | ハードウェアの能力によっては、アップグレードプロセスには数十分かかります。 |

| インストール 情報 | 説明 |
|---|--|
| Errors during upgrade (アッ プグレード中 のエラー) | <p data-bbox="480 254 1386 344">アップグレード中にエラーが発生した場合は、このページが表示されます。エラーを解決して、アップグレードを再開する必要があります。詳細については、次の場所にあるログファイルを参照してください。</p> <p data-bbox="480 369 1365 432">Windows の場合 : 古い Novell と新しい Micro Focus ファイルパス両方のログを確認できます。</p> <p data-bbox="480 457 740 485">「Novell ファイルパス」</p> <ul data-bbox="508 516 1386 827" style="list-style-type: none"> ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs <ul style="list-style-type: none"> ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\loader-messages.log ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\system-update-import.log ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\system-update\<更新 GUID> ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\pre-global-actions.log ◆ %WINDOWS_SYSTEM_DRIVE%\tmp\err.log <p data-bbox="480 852 802 879">「Micro Focus ファイルパス」</p> <ul data-bbox="508 911 1386 1083" style="list-style-type: none"> ◆ %ZENSERVER_HOME%\logs <ul style="list-style-type: none"> ◆ %ZENSERVER_HOME%\logs\ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml ◆ %ZENSERVER_HOME%\logs\loader-messages.log ◆ %ZENSERVER_HOME%\logs\system-update-import.log <p data-bbox="480 1108 1133 1136">Linux の場合 : 次のファイルパスのログを確認できます。</p> <p data-bbox="480 1161 740 1188">「Novell ファイルパス」</p> <ul data-bbox="508 1220 1325 1564" style="list-style-type: none"> ◆ /var/opt/novell/log/zenworks <ul style="list-style-type: none"> ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/system-update/<更新 GUID> ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/loader-messages.log ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/system-update-import.log ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/pre-global-actions.log ◆ /tmp/err.log <p data-bbox="480 1589 792 1617">「Microfocus ファイルパス」</p> <ul data-bbox="508 1648 1377 1757" style="list-style-type: none"> ◆ /var/opt/microfocus/log/zenworks <ul style="list-style-type: none"> ◆ /var/opt/microfocus/log/zenworks/ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml <p data-bbox="280 1787 443 1877">アップグレー ド後アクショ ン</p> <p data-bbox="480 1787 1365 1883">アップグレードプログラムを終了する前に、ZENworks システムステータスユーティリティを実行して、ZENworks サービスのハートビートチェックを起動できます。結果はインストールログに記録されます。</p> |

インストール 説明 情報

サーバの再起動 (Windows の場合のみ) Windows プライマリサーバでのアップグレード後、すぐに再起動するか、後で再起動するか選択できます。

- ◆ はい、システムを再起動します : サーバを再起動し、アップグレード処理を完了します。
 - ◆ いいえ、システムを後で手動で再起動します : サーバの次回再起動時に、アップグレード処理を完了します。
- 重要 :** アップグレード処理を完了するには、サーバを再起動する必要があります。

アップグレードの完了 次のアクションを含め、前に選択したアクションが実行されます。

- ◆ ZENworks データベースをアップグレードする (最初のプライマリサーバのアップグレード時に実行)。
 - ◆ プライマリサーバにインストールされているZENworksコンポーネントすべてのアップグレード。
 - ◆ ゾーンへのシステム更新のインポート (ゾーン内の管理対象デバイスのアップグレードが可能になる)
-

コマンドラインを使用した Linux サーバのアップグレード

ZENworks 2020 から ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードしたいプライマリサーバで、次の手順を実行します。

- 1 アップグレードの前提条件が満たされていることを確認します。
- 2 ZENworks アップグレードプログラムを起動して Linux ターミナルを開き、アップグレードメディアのルートを参照して、次のコマンドを入力します。

```
./setup.sh --console
```

または

```
./setup.sh -e
```

- 3 言語を選択します。デフォルト言語は英語です。使用する言語に対応する番号を選択し、[Enter] を押して続行します。
- 4 イントロダクションを確認してから、[Enter] を押して続行します。

ヒント : 「back」を入力し、[Enter] を押すと、前のインストールオプションに戻って変更を行うことができます。ウィザードを終了するには、「quit」を入力します。

- 5 エンドユーザ使用許諾契約 (EULA) に同意する場合は、「1」を入力して [Enter] を押しします。
- 6 使用許諾契約に同意する場合は、「1」を入力して [Enter] を押しします。
同意しない場合、アップグレードウィザードは終了します。

- 7 [Prerequisite check (前提条件の確認)] ページが表示されます。警告またはエラーメッセージが表示される場合は、エラーを解決してから [Enter] を押して続行します。
- 8 これがアップグレードする最初のプライマリサーバである場合は [1]、それ以外の場合は「2」を入力し、[Enter] を押します。
- 9 (条件付き) 前のページで「1」を入力した場合、ゾーン管理者の資格情報の入力を求められます。詳細を指定して [Enter] を押し、[ステップ 11](#) に進みます。
- 10 (条件付き) 前のページで「2」を入力した場合、アップグレード済みのプライマリサーバの詳細およびゾーン管理者の資格情報の入力を求められます。必要な詳細情報を指定して、[Enter] を押します。
- 11 [[ゾーンの管理ユーザの名前を入力します。](#)] 行の末尾で、[Enter] を押してデフォルト (Administrator) をそのまま使用するか、または管理者名を指定して [Enter] を押します。
- 12 管理者のパスワードを指定して、[Enter] を押します。
- 13 [ZENworks ライセンス登録] ページには、ZENworks ライセンス登録タイプを変更するオプションがあります。ZENworks 2020 Update 2 ライセンスを指定して、[次へ] をクリックします。
- 14 他のすべてのプライマリサーバで ZENworks サービスを停止し、次に [Enter] を押してローカルサーバのサービスを停止します。
アップグレード前に、管理ゾーン内にある他のすべてのプライマリサーバのサービスを停止する必要があります。他のプライマリサーバのサービスが停止されていない場合、アップグレードを続行することはできません。
アップグレードプロセス中は、データベースサービス以外の ZENworks サービスは実行できません。
- 15 アップグレード前の概要をよく読んで、[Enter] を押して続行します。
管理ゾーン内の他のプライマリサーバをアップグレードする場合は、この手順で [Enter] を押すとアップグレードが始まります。
- 16 [[アップグレード完了](#)] と表示されたら、[Enter] を押して続行します。
エラーが表示された場合、`/var/opt/novell/log/zenworks` または `/var/opt/novell/log/zenworks/systemupdate/<Update GUID>` ファイルにあるインストールログを参照してください。
アップグレードプロセスの再実行中にエラーが表示される場合は、Micro Focus パスのログを確認することもできます。例 : `/var/opt/microfocus/log/zenworks`
- 17 次の操作を実行して、ZENworks 2020 Update 2 が実行されていることを確認します。

- **特定のサービスコマンドを使用した Linux サービスのチェック**

SLES 12 以降のサーバでは、次のコマンドを実行します。

```
systemctl status microfocus-zenserver.service
```

```
systemctl status microfocus-zenloader.service
```

サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを実行して ZENworks サービスを開始します。

```
systemctl start microfocus-zenserver.service
```

```
systemctl start microfocus-zenloader.service
```

- ◆ **設定コマンドを使用して Linux サービスをチェックする**

サーバで次のコマンドを実行します。

```
microfocus-zenworks-configure -c SystemStatus
```

ZENworks サービスとそのステータスが表示されます。

サービスを実行するには、次のコマンドを実行してください。

```
microfocus-zenworks-configure -c Start
```

- ◆ **ZENworks コントロールセンターの実行**

ネットワーク内にある任意のデバイスの Web ブラウザで、次の URL を使用して ZENworks コントロールセンターを開きます。

```
https://<DNS name of the Primary_Server>/zenworks
```

または

```
https://<IP address of the Primary_Server>/zenworks
```

18 他のプライマリサーバをアップグレードするには、[ステップ 2](#) から繰り返します。

アップグレード後のタスクの詳細については、『[ZENworks サーバインストールガイド](#)』の「[インストール後のタスクの完了](#)」を参照してください。

注 : ZENworks Reporting を使用している場合は、ゾーンを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードした後で、必ず ZENworks Reporting を再設定してください。詳細については、『[ZENworks Reporting アプライアンス展開および管理リファレンス](#)』の「[ZENworks Reporting アプライアンスの再設定](#)」を参照してください。

ZENworks 2020 Update 2 Lighthouse ビルドの ZENworks 2020 Update 2 FCS へのアップグレード

ZENworks 2020 Update 2 Lighthouse ビルドを展開し、ゾーンを ZENworks 2020 Update 2 FCS にアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

Linux/ アプライアンスの場合

アプライアンス : ZENworks 2020 Update 2 Lighthouse アプライアンスビルドを Microsoft Hyper-V、XEN on SLES、または Citrix XenServer に展開していて、ZENworks 2020 Update 2 FCS ビルドに更新する場合は、Micro Focus カスタマサポートに連絡してから、次の手順を実行してください。

- 1 /var/tmp または /var/opt/microfocus/zenworks/tmp ディレクトリに一時ディレクトリ (mntdir) を作成します。
- 2 作成された一時ディレクトリに ISO をマウントします。
- 3 ISO をマウントした後で、ZENloader サービスを再起動してください。
- 4 マウントディレクトリ (mntdir) に移動します。

例：

- ◆ /var/tmp/ の場所にマウントした場合は、/var/tmp/mntdir に移動します。
- ◆ /var/opt/microfocus/zenworks/ の場所にマウントした場合は、/var/opt/microfocus/zenworks/mntdir に移動します。

5 zman sui Common コマンドを実行します。

プロンプトが表示されたら、管理者資格情報を指定すると、ルートパスワードの入力を求められます。

システム更新がゾーンにインポートされ、ZCC でステータスを追跡するには、[環境設定] > [システム更新] に移動します。

更新の展開手順については、『ZENworks System Updates Reference』の「Deploying Updates」を参照してください。

Windows の場合

- 1 ZENworks 2020 Update 2 ISO をマウントします。
- 2 ISO をマウントした後で、ZENloader サービスを再起動します。
- 3 コマンドプロンプトを開いて、<mount_location> に移動します。
- 4 zman sui Common コマンドを実行します。

プロンプトが表示されたら、管理者資格情報を指定します。

システム更新がゾーンにインポートされ、ZCC でステータスを追跡するには、[環境設定] > [システム更新] に移動します。

更新の展開手順については、『ZENworks System Updates Reference』の「Deploying Updates」を参照してください。

ZENworks 診断センターの実行によるデータベーススキーマの検証

初めてプライマリサーバを ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードする場合、データベーススキーマを検証する必要があります。それ以降のサーバのアップグレードでは、この手順は実行しないでください。

- ◆ 35 ページの「組み込みデータベーススキーマの検証」
- ◆ 36 ページの「外部データベーススキーマの検証」

組み込みデータベーススキーマの検証

1 プライマリサーバのコンソールプロンプトから、次のコマンドを実行します。

- ◆ **Windows の場合**

```
cd to MEDIA_ROOT\Common\tools\zdc
zdc_verifyDB.bat
```

- ◆ **Linux の場合**

```
cd to MEDIA_PATH/Common/tools/zdc
```

```
./zdc_verifyDB
```

ZENworks 診断センターは、診断テストを実行し、結果を HTML 形式で生成します。

Windows プライマリサーバでは、レポートは

%ZENSERVER_HOME%\logs\zdcreports\%SESSION% に保存されます。

```
/var/opt/microfocus/log/zenworks/zdcreports
```

Linux プライマリサーバでは、レポートは次の場所に保存されます。

```
/var/opt/microfocus/log/zenworks/zdcreports
```

レポートを表示するには、index.html(report ディレクトリ)を開きます。

診断テストの完全なログは、次の場所に保存されます。

Windows の場合 : %ZENSERVER_HOME%\logs\zdcreports\zdc_zen11_verify_%SESSION%.log

Linux の場合 : /var/opt/microfocus/log/zenworks/zdcreports

外部データベーススキーマの検証

外部データベーススキーマ (外部の PostgreSQL、Microsoft SQL、または Oracle データベーススキーマなど) を検証するには、次の手順を実行します。

- 1 プライマリサーバのコンソールプロンプトから、次のコマンドを実行します。

- ◆ **Windows の場合**

```
cd to MEDIA_PATH/Common/tools/zdc
```

```
zdc_verifyDB.bat -d check
```

- ◆ **Linux の場合**

```
cd to MEDIA_PATH/Common/tools/zdc
```

```
./zdc_verifyDB -d check
```

注 : -d check パラメータは、データベースをデバイス間で移行する場合に限り使用してください。同じデバイスでデータベースをアップグレードする場合は、-d check パラメータを使用しないでください。

- 2 データベースのタイプを指定します。データベースタイプに対応する番号を入力します。
 - ◆ (1) PostgreSQL
 - ◆ (2) MS-SQL
 - ◆ (3) Oracle
- 3 選択したデータベース (Microsoft SQL、PostgreSQL、または Oracle) に基づいて、データベースの詳細を指定します。

注 : Microsoft SQL データベースを使用している場合、ログインに選択している認証タイプに応じた形式でユーザ名を入力します。

- ◆ Windows 認証 : < 名前 > @ < ドメイン >
- ◆ SQL Server 認証 : < 名前 >

-
- 4 (条件付き) データベースがリモート PostgreSQL である場合、データベースエンジン名を入力します。

ZENworks 診断センターは、診断テストを実行し、結果を HTML 形式で生成します。Windows プライマリサーバでは、レポートは %ZENSERVER_HOME%\logs\zdcreports\%SESSION% に保存されます。

Linux プライマリサーバでは、レポートは次の場所に保存されます。

`/var/opt/microfocus/log/zenworks/zdcreports`

レポートを表示するには、`index.html(report ディレクトリ)` を開きます。

診断テストの完全なログは、次の場所に保存されます。

Windows の場合 : %ZENSERVER_HOME%\logs\zdcreports\zdc_zen11_verify_%SESSION%.log

Linux の場合 : `/var/opt/microfocus/log/zenworks/zdcreports`

クリーンアップユーティリティの実行

アップグレード後、ZENworks サーバ設定が古い Novell ファイルパスから新しい Micro Focus ファイルパスにコピーされます。ただし、ZENworks サーババイナリおよび古いファイルパスの古い設定は、アップグレードプロセス中に保持されます。アップグレードされたバージョンの ZENworks サーバが期待どおりに動作しているか確認したら、ビルドに付属しているクリーンアップユーティリティを実行して、保持されているサーバデータを削除できます。このセクションで説明するトピックは次のとおりです。

- ◆ [37 ページの「Linux またはアプライアンスサーバでの名前変更されたサービスとファイルの場所の表示」](#)
- ◆ [39 ページの「Linux またはアプライアンスサーバでのクリーンアップユーティリティの実行」](#)
- ◆ [40 ページの「Windows サーバでの名前変更されたサービスとファイルの場所の表示」](#)
- ◆ [41 ページの「Windows サーバでのクリーンアップユーティリティの実行」](#)

Linux またはアプライアンスサーバでの名前変更されたサービスとファイルの場所の表示

アップグレードが正常に完了したら、このリリースで導入された変更を確認することができます。

- ◆ [38 ページの「ZENworks サーバデータの新しいファイルパス」](#)
- ◆ [38 ページの「名前変更された設定アクション」](#)
- ◆ [38 ページの「名前変更されたサービス」](#)

ZENworks サーバデータの新しいファイルパス

例：

- ◆ **ログファイル**：ログファイルは、新しい Micro Focus パス (/var/opt/microfocus/log/zenworks) で利用できるようになります。

古い Novell パス (/var/opt/novell/log/zenworks) のログファイルも保持されます。これらのファイルは、クリーンアップユーティリティを実行しても削除されません。

注：アップグレード後に生成される新しいサーバ関連のログファイルはすべて古い Novell ファイルパスではなく、新しい Micro Focus ファイルパスでのみ利用できます。

- ◆ **設定ファイル**：ZENworks サーバ専用の設定ファイルは、新しい Micro Focus パス (/etc/opt/microfocus/zenworks) で利用できるようになります。

また、サーバとエージェント両方の設定ファイルは、古い Novell パス (/etc/opt/novell/zenworks) に保持されます。クリーンアップユーティリティを実行すると、ZENworks サーバに関連する設定ファイルは古いパスから削除されます。ただし、ZENworks エージェントに関連するファイルは古いパスに保持されます。

- ◆ **ライブラリ**：ZENworks サーバ専用のライブラリは新しい Micro Focus パス (/opt/microfocus/zenworks) で利用できるようになります。

また、サーバとエージェント両方のライブラリは、古い Novell パス (/opt/novell/zenworks) に保持されます。クリーンアップユーティリティを実行すると、ZENworks サーバに関連するライブラリは古いパスから削除されます。

名前変更された設定アクション

設定アクションが Novell から Micro Focus に名前変更されました。たとえば、設定アクション novell-zenworks-configure -c CalibrateMemoryConfigureAction は、microfocus-zenworks-configure -c CalibrateMemoryConfigureAction に名前変更されました。Novell 命名規則に従う設定アクションは、このリリースでは非推奨となり、Micro Focus 命名規則に従う設定アクションを利用できるようになります。

名前変更されたサービス

ZENworks サーバサービスは Novell から Micro Focus に名前変更されました。たとえば、novell-zenserver.service は、microfocus-zenserver.service に名前変更されます。同様に、novell-zenloader.service や novell-zenjoinproxy.service などのサービスは、それぞれ microfocus-zenloader.service や microfocus-zenjoinproxy.service に名前変更されます。

ただし、古いサービス名は引き続き表示されますが、非アクティブになります。古いサーバサービスを削除するには、クリーンアップユーティリティを実行できます。

したがって、systemctl コマンドを使用してサービスを開始または停止する際には、コマンドで名前変更されたサービスを使用していることを確認してください。

注：novell-zenworks-xplatzmd.service などの一部のサービスは、名前変更されず、クリーンアップユーティリティを実行した後も古い命名規則のままです。

PostgreSQL の組み込みデータベースに関連するサービスも Novell 命名規則を保持します。つまり、zenpostgresql.service は有効のまま、クリーンアップ中に削除されません。

Linux またはアプライアンスサーバでのクリーンアップユーティリティの実行

クリーンアップユーティリティにより、Novell ファイルパスに保持されている古い ZENworks 設定データおよび非アクティブな古いバージョンの ZENworks サーバサービスを削除できます。アップグレードされたサーバが期待どおりに動作しているかどうかを確認した後でのみクリーンアップユーティリティを実行します。クリーンアップユーティリティの実行後に、次のものが保持されます。

- 設定ファイルやライブラリなどの ZENworks エージェント関連のデータは古い Novell ファイルパスに保持されます。
- ZENworks System Updater Service (ZeUS) フォルダは /opt/novell/zenworks/ZeUS パスに保持されます。
- システム更新および他のログファイルは、/var/opt/novell/log/zenworks パスに保持されません。
- ZENworks エージェントに関連するサービス、つまり、novell-zenworks-xplatcmd.service は、Novell 命名規則に従って保持されます。
- 組み込み PostgreSQL に関連するサービス、つまり、zenpostgresql.service は名前変更されません。

クリーンアップユーティリティを実行するには、ルートユーザとして次のコマンドを実行し、クリーンアップを続行するかどうかを確認します。

```
/opt/microfocus/zenworks/bin/zen-legacy-cleanup.sh
```

ユーザの介入なしにクリーンアップユーティリティをサイレントに実行するには、コマンドに `-s` フラグを追加します。

このクリーンアップユーティリティのログは、/var/opt/microfocus/log/zenworks/zen-legacy-cleanup_<タイムスタンプ>.log の場所にありま

コマンドを実行後、古いファイルパス /opt/novell/zenworks/ のファイルと Novell 命名規則に従う古いサーバサービスがサーバから削除されているかどうかを確認できます。

注: クリーンアップユーティリティを実行すると、Sybase 関連のファイルは保持され、アップグレードされた ZENworks サーバが期待どおりに動作しているかどうかを確認した後で、手動で削除できます。

Windows サーバでの名前変更されたサービスとファイルの場所の表示

アップグレードが正常に完了したら、このリリースで導入された変更を確認することができます。

- ◆ 40 ページの「ZENworks サーバデータの新しいファイルパス」
- ◆ 40 ページの「名前変更されたサービス」
- ◆ 41 ページの「新しい環境変数の導入」
- ◆ 41 ページの「名前変更された設定アクション」

ZENworks サーバデータの新しいファイルパス

例：

- ◆ **ログファイル**：ログファイルは新しい Micro Focus パスで利用できるようになります。
例：C:\Program Files (x86)\Micro Focus\ZENworks\logs。

古い Novell パスのログファイルは保持されます。例：C:\Program Files (x86)\Novell\ZENworks\logs。これらのファイルは、クリーンアップユーティリティを実行した後で削除されません。

注：アップグレード後に生成される新しいサーバ関連のログファイルはすべて古い Novell ファイルパスではなく、新しい Micro Focus ファイルパスでのみ利用できます。

- ◆ **ライブラリ**：ZENworks サーバ専用のライブラリは新しい Micro Focus パスで利用できるようになります。例：C:\Program Files (x86)\Micro Focus\ZENworks\lib。

また、サーバとエージェント両方のライブラリは、古い Novell パスに保持されます。例：C:\Program Files (x86)\Novell\ZENworks\lib。クリーンアップユーティリティを実行すると、ZENworks サーバに関連するライブラリは古いパスから削除されます。

名前変更されたサービス

ZENworks サーバサービスは Novell から Micro Focus に名前変更されました。例：Novell ZENworks Join Proxy は、Microfocus ZENworks Join Proxy に名前変更されます。同様に、サービス Novell ZENworks Loader は、Microfocus ZENworks Loader に、Novell ZENworks Services Monitor は、Microfocus ZENworks Services Monitor に、Novell ZENworks Server は、Microfocus ZENworks Server に名前変更されます。

ただし、古い Novell 命名規則を使用するサービスは、引き続き表示されますが、無効になります。これらのサービスを削除するには、クリーンアップユーティリティを実行する必要があります。

注：クリーンアップユーティリティの実行後は、Novell ZENworks Agent Service などのサービスは有効のままで、Novell 命名規則は保持されます。

PostgreSQL の組み込みデータベースに関連するサービスも Novell 命名規則を保持します。つまり、Novell ZENworks Embedded Datastore-PostgreSQL は有効のまま、クリーンアップ中に削除されません。

新しい環境変数の導入

新しい Micro Focus ファイルパス C:\Program Files (x86)\Micro Focus\ZENworks を指す新しい新しい環境変数 %ZENSERVER_HOME% がこのリリースに導入されました。既存の環境変数 %ZENWORKS_HOME% は、Novell ファイルパスに保持されている ZENworks エージェントデータにアクセスするために引き続き適用できます。

名前変更された設定アクション

設定アクションが Novell から Micro Focus に名前変更されました。たとえば、設定アクション novell-zenworks-configure -c CalibrateMemoryConfigureAction は、microfocus-zenworks-configure -c CalibrateMemoryConfigureAction に名前変更されました。Novell 命名規則に従う設定アクションは、このリリースでは非推奨となり、Micro Focus 命名規則に従う設定アクションを利用できるようにになります。

Windows サーバでのクリーンアップユーティリティの実行

クリーンアップユーティリティにより、Novell ファイルパスに保持されている古い ZENworks サーバデータおよび無効になっている古いバージョンの ZENworks サーバサービスを削除できます。アップグレードされた ZENworks サーバが期待どおりに動作しているかどうかを確認した後でのみ、クリーンアップユーティリティを実行します。クリーンアップユーティリティの実行後に、次のものが保持されます。

- 設定ファイルやライブラリなどの ZENworks エージェント関連データは、Novell ファイルパスに保持されます。例 : C:\Program Files (x86)\Novell\ZENworks。
- ログファイルは Novell ファイルパスに保持されます。例 : C:\Program Files (x86)\Novell\ZENworks\logs。
- ZENworks System Updater Service (ZeUS) フォルダは、Novell ファイルパスに保持されません。例 : C:\Program Files (x86)\Novell\ZENworks\ZeUS。
- ZENworks エージェントに関連するサービスは、Novell 命名規則を保持します。つまり、Novell ZENworks Agent Service は有効のままです。クリーンアップ中に削除されません。
- PostgreSQL の組み込みデータベースに関連するサービスも Novell 命名規則を保持します。つまり、Novell ZENworks Embedded Datastore-PostgreSQL は有効な状態になります。クリーンアップ中に削除されません。

保持されているデータをクリーンアップするには、管理者としてクリーンアップユーティリティを実行します。ユーティリティは次の場所で入手できます。

```
%ZENSERVER_HOME%\bin\ZENLegacyCleanup.exe
```

このクリーンアップユーティリティのログは、
%ZENSERVER_HOME%\logs\LegacyUninstall\ZENLegacyCleanup_<タイムスタンプ>.log の場所にあり
ます。

コマンドを実行した後で、古い Novell ファイルパスの ZENworks サーバデータと Novell 命名規則に従う ZENworks サーバサービスがサーバから削除されているかどうかを確認できます。

注: クリーンアップユーティリティを実行すると、Sybase 関連のファイルは保持され、アップグレードされた ZENworks サーバが期待どおりに動作しているかどうかを確認した後で、手動で削除できます。

アップグレード後の環境設定

プライマリサーバを正常にアップグレードした後で、次のアップグレード後の設定を実行します。

1. ZENworks ライセンスを有効にして、システム更新エンタイトルメントを設定します。ライセンスの詳細については、[TID 7024521](#) を参照してください。

注

- ◆ ZENworks をライセンス登録した後で、ZENworks システム更新ページで更新を確認してください。
-
2. Micro Focus Customer Center からのアプライアンスキーを使用して、オンラインアップデートを登録して、設定します。詳細については、次のリンクを参照してください。
 - ◆ [Micro Focus Customer Center からのライセンスの取得](#)
 - ◆ [オンラインアップデート](#)
 3. ZENworks Control Center で ZENworks のバージョンを確認します ([環境設定] > [サーバの階層])。
 4. システム更新のステータスが正常であることを確認します。
 5. 最新の ZDC を実行して、スキーマを検証していることを確認します。詳細については、「[ZENworks 診断センター](#)」を参照してください。
 6. (条件付き) 最新の Tuxera NTFS ドライバまたはイメージングの更新を適用していることを確認します。詳細については、「[Adding Tuxera Driver for ZENworks Imaging](#)」を参照してください。
 7. レポートリングが新たに使用可能なドメインを取得するように設定していることを確認します。詳細については、「[ZENworks Reporting Configuration](#)」を参照してください。
 8. ZooKeeper サービスが常に稼働していることを確認し、ZENworks ロードサービスや Vertica データベースなどのさまざまな ZENworks コンポーネントが適切に機能できるようにします。ZooKeeper サービスのステータスを確認するには、ZCC の診断ページを参照してください。ZooKeeper コンポーネントの詳細については、『[Vertica Reference Guide](#)』の「[ZooKeeper](#)」を参照してください。

注: ゾーン内に複数のプライマリサーバがある場合は、デフォルトで、ZooKeeper サービスは最初にアップグレードされたプライマリサーバノードで稼働し、アクティブになります。

ファイアウォール制限のためにゾーン内のプライマリサーバが ZooKeeper サービスと通信できない場合は、次の設定アクションを実行して ZooKeeper ポートを開くことができます。また、ファイアウォールが他のプライマリサーバからポート 6789 の ZooKeeper サービスへのクライアント接続を許可していることを確認する必要があります。ゾーン内のプライマリサーバが ZooKeeper サービスにアクセスできない場合は、ポートを開くため、ZooKeeper が有効になっているサーバで次の設定アクションを実行できます。

```
microfocus-zenworks-configure -c ClusterFirewallConfigureAction -  
Doperation=add -Dservice=zookeeper
```

ただし、DMZ 内のプライマリサーバが企業ネットワーク内の ZooKeeper サービスにアクセスできない場合は、企業ファイアウォールでポート 6789 を手動で開く必要があります。

ZooKeeper ポートの詳細については、『ZENworks 2020 TCP and UDP Ports』を参照してください。

トラブルシューティング

ZENworks サーバのアップグレードが失敗した場合、問題を修正して ZENworks アップグレードインストーラを再実行する必要があります。

- アップグレードインストーラは、アップグレードを開始したサーバと同じサーバで再実行する必要があります。
- パッケージアップグレード後のデータベースアクション中にアップグレードが失敗した場合、アップグレードインストーラを再実行してゾーン認証が完了すると、[アップグレード前の概要] ページが表示され、アップグレードはデータベースアクションの実行を続行します。
- 組み込み PostgreSQL データベースを使用している場合、アップグレードインストーラを再実行する前に、データベースフォルダから .dbR および .logR ファイルを削除してください。

次の各セクションでは、ZENworks プライマリサーバのアップグレード時に発生する可能性がある問題の解決方法を示します。

- 44 ページの「PostgreSQL エンジンのアップグレードが失敗したため、ZENworks アップグレードが失敗する」
- 44 ページの「Linux プライマリサーバでアップグレードがエラーで完了する」
- 45 ページの「ZENworks エージェントと MDM エージェントの両方を備えたデバイスに更新が適用された場合、再作成システム更新はベースライン化されない」
- 45 ページの「Windows プライマリサーバで ZENworks 2020 へのアップグレードが失敗する」
- 45 ページの「ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードした後で、MDM デバイスに一貫性のないステータスが表示される」
- 46 ページの「保留中の再起動エラーにより、システム更新に失敗」
- 46 ページの「SLED 15 SP1 デバイスで IOA システム更新が失敗する」

- ◆ 47 ページの「Windows プライマリサーバのアップグレード中に Windows エクスプローラーが数回自動的に再起動する」
- ◆ 47 ページの「ZENworks のアップグレードを起動したときにデータベースがトランザクションを実行中である場合、アップグレードプロセスと衝突する可能性がある」
- ◆ 48 ページの「Oracle データベースを使用している場合、アップグレードまたはデータベース作成中に TNS エラーメッセージが表示される」
- ◆ 48 ページの「MS SQL データベースを使用している場合、アップグレードまたはデータベース作成中に接続の問題が発生する」
- ◆ 49 ページの「プルーニングするインベントリレコードに対して間違っただ値が表示される」
- ◆ 49 ページの「長い名前が付いたフォルダを削除するとエラーが発生する」
- ◆ 50 ページの「MS SQL データベースの照合の非互換性のため、ZENworks スキーマがアップグレードに失敗する」
- ◆ 50 ページの「アップグレード XML ログファイルが Google Chrome および Firefox で正しく表示されない」
- ◆ 51 ページの「Linux プライマリサーバでは、レガシ Novell サービスが起動設定アクションに一覧表示される」
- ◆ 51 ページの「ZENworks プライマリサーバのアップグレードが 'Zulu Platform x64 Architecture has stopped working' エラーで失敗する」

PostgreSQL エンジンのアップグレードが失敗したため、ZENworks アップグレードが失敗する

説明： ZENworks をアップグレード中に、PostgreSQL エンジンのアップグレードが失敗した場合は、ZENworks アップグレードが失敗します。これは、アップグレードが開始される前に PostgreSQL サービスが一貫性のない状態であったために発生する可能性があります。

アクション： アップグレードログに「データベースサービスの作成 (dbsvc) が失敗しました。リターンコード: ?2」という例外が記録される場合、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks、Windows の場合は %ZENWORKS_HOME%\conf に存在する zen20u2_upgrade_status ファイルを開き、ファイルから **POSTGRES_ENGINE_UPGRADE = stop service** 行を削除します。組み込みデータベースサービスを開始してから、アップグレードを再トリガーします。

解決策は、サービス停止に障害が発生した場合にのみ実行する必要があります。ただし、この解決策は他の段階での障害には推奨されません。

Linux プライマリサーバでアップグレードがエラーで完了する

説明： メッセージの説明。

考えられる原因： Linux プライマリサーバでアップグレードすると、アップグレードがエラーで完了する可能性があります。ただし、これは誤ったアラームである可能性があり、アップグレードは成功する可能性があります。

トラブルシューティング:アップグレードログを開いて、次のステートメントがログに記録されているかどうかを確認します。

```
"![CDATA[Docker service check failed: Format specifier '%s']]. Severity is CDATA[8]]"
```

アップグレードログの“![CDATA[8]]”のインスタンス数を検索します。上記のステートメントとともに、インスタンスが1つしかない場合、アップグレードは成功します。ZCCにログインして、同じことを確認してください。

ZENworks エージェントと MDM エージェントの両方を備えたデバイスに更新が適用された場合、再作成システム更新はベースライン化されない

ソース: ZENworks

説明: ZENworks エージェントと MDM エージェントの両方を備えたデバイスで再作成プロセスを開始すると、証明書は ZENworks エージェントに正常に適用され、ステータスは「完了」と表示されますが、MDM エージェントのステータスは「証明書アクティベーションを保留しています」状態と表示され、この状態は、MDM デバイスの登録解除クイックタスクを使用して MDM が登録解除される場合にも保持されます。したがって、再作成更新はアクティベーション時刻に達した場合でもベースライン化されません。

アクション: 更新をベースライン化するには、デバイスで再作成システム更新を無視します。

Windows プライマリサーバで ZENworks 2020 へのアップグレードが失敗する

説明: Windows プライマリサーバを ZENworks 2020 にアップグレードする際に、アップグレードが失敗します。

アクション: 次の手順を実行します。

1. サーバアップグレードにすでに失敗している場合は、特権ユーザとして次のコマンドを実行します。

```
icacls "%zenworks_home%\cache" /remove:d Users
```

2. コマンドの実行後、ZENworks 2020 Media Upgrade (ISO) を使用してアップグレードを再試行します。

ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードした後で、MDM デバイスに一貫性のないステータスが表示される

ソース: ZENworks

説明：ZENworks 2020 または 2020 Update 1 (MDM 専用) で登録された MDM デバイスに ZENworks 2020 Update 2 を適用すると、システム更新デバイスのステータスに「更新が適用可能ではありません」と表示されます。

アクション：なし

ゾーン内のすべてのデバイスを更新した後で、MDM デバイスを無視して更新をベースライン化します。

保留中の再起動エラーにより、システム更新に失敗

ソース：ZENworks

説明：システム更新の展開中に、システムが複数回再起動されます。システムのシャットダウン後でも、システム更新が失敗し、保留中の再起動エラーが表示されます。

アクション：デバイスの更新後にデバイスを再起動することをお勧めします。最新の Windows デバイスでは、高速スタートアップモードにより、シャットダウンと起動はデバイスの再起動とは見なされません。したがって、デバイスを再起動するか、「高速スタートアップ」モードを無効にする必要があります。

SLED 15 SP1 デバイスで IOA システム更新が失敗する

ソース：ZENworks

説明：「zac su」コマンドを使用して SLED 15 デバイスで IOA システム更新を展開すると、システム更新が失敗する可能性があります。これは、デフォルトで、SLED 15 デバイスに「at」パッケージがインストールされていない可能性があるためです。

これを検証するには、IOA ユーザまたは管理者が zmd-messages.log ファイルをチェックして、「Cannot run program "at": error=2, No such file or directory (プログラム「at」を実行できません : error = 2、そのようなファイルまたはディレクトリはありません)」というエラーを確認できます。

アクション：「at」パッケージが IOA デバイスにインストールされていない場合は、zypper コマンドなどのツールを使用して「at」コマンドをインストールします。「at」コマンドをインストールした後で、zac su コマンドを再実行します。

zypper コマンドが「at」パッケージを特定できない場合は、次の RPM をインストールできます。

RPM は <https://rpmfind.net/linux/rpm2html/search.php> からダウンロードできます。

1. 「libHX28」を検索し、OS プラットフォームに適用可能な rpm をダウンロードします。

例：libHX28-3.22-lp150.1.7.x86_64.rpm

2. 「libfl2」を検索し、OS プラットフォームに適用可能な rpm をダウンロードします。

例 : libfl2-2.6.4-lp150.2.48.x86_64.rpm

3. 「at」を検索し、OS プラットフォームに適用可能な rpm をダウンロードします。

例 : at-3.1.20-lp150.2.27.x86_64.rpm

Windows プライマリサーバのアップグレード中に Windows エクスプローラーが数回自動的に再起動する

説明 : Windows プライマリサーバのアップグレード中に、Windows エクスプローラーが数回自動的に再起動し、[コマンドプロンプト] ウィンドウが起動して次のメッセージが表示されます。

For each prompt presented, press 'enter' to accept the <default> value, type 'back' to return to the previous action, or type 'quit' to exit.

アクション : このメッセージは無視してください。

ZENworks のアップグレードを起動したときにデータベースがトランザクションを実行中である場合、アップグレードプロセスと衝突する可能性がある

ソース : ZENworks、アップグレード

説明 : ZENworks のアップグレードを起動したときにデータベースがトランザクションを実行中である場合、アップグレードプロセスと衝突する可能性があります。

アクション : アップグレードプロセスと衝突するデータベースセッションを終了させます。データベースセッションを終了させるには、次の手順を実行します。

- 1 データベースにシステムユーザとしてログインし、SQL クライアントを起動します。
- 2 データベースタイプに応じて、次のいずれかのスクリプトを実行します。

- ◆ Oracle:

```
select 'ALTER SYSTEM KILL SESSION '''||SID||','||SERIAL#||'';' AS "Drop Query",b.sql_text,a.* from gv$session a, gv$sql b where (case when a.sql_id is null then a.prev_sql_id else a.sql_id end)=b.sql_id and a.program='JDBC Thin Client' and a.logon_time< (sysdate-3/60/24) and a.username='<<ZENWORKSUSER>>';
```

各要素の内容は次のとおりです。

ZENWORKSUSER は、ZENworks データベースユーザ名です。

- ◆ MS SQL:

```
select 'KILL '+cast(spids as varchar(100)) as "Drop Query", r.text,s.* from
sys.sysprocesses s cross apply sys.dm_exec_sql_text (sql_handle) r where
s.program_name='JTDS' and s.spid!=@@spid and s.login_time <
dateadd(minute,-3,getdate()) and s.loginame='<<ZENWORKSUSER>>';
```

各要素の内容は次のとおりです。

ZENWORKSUSER は、ZENworks データベースユーザ名です。

- ◆ SQL Anywhere:

```
SELECT 'Drop connection '+cast(sa_conn_info.Number as varchar(100))+';' as
"Drop Query", sa_conn_info.Number AS connection_number, DB_NAME(
DBNumber ) AS database_name, sa_conn_info.name AS connection_name,
sa_conn_info.userid, CONNECTION_PROPERTY( 'LoginTime', Number ) as
"Login Time", CONNECTION_PROPERTY( 'LastStatement', Number ) As
"Query" FROM sa_conn_info() where sa_conn_info.Number != @@spid and
CONNECTION_PROPERTY( 'LoginTime', Number ) < dateadd(minute,-
3,getdate()) and userid='<<ZENWORKSUSER>>';
```

各要素の内容は次のとおりです。

ZENWORKSUSER は、ZENworks データベースユーザ名です。

Oracle データベースを使用している場合、アップグレードまたはデータベース作成中に TNS エラーメッセージが表示される

ソース：ZENworks、アップグレード

説明：Oracle データベースを使用している場合、アップグレードまたはデータベース作成中に、エラーメッセージ [TNS:listener could not find available handler with matching protocol stack (TNS: リスナは、一致するプロトコルスタックを持つ、使用可能なハンドラを検出できませんでした)] が表示されます。

アクション：PROCESSES パラメータで指定されている専用接続の最大負荷を増やします。問題が解決しない場合は、Micro Focus カスタマサポートにお問い合わせください。

MS SQL データベースを使用している場合、アップグレードまたはデータベース作成中に接続の問題が発生する

ソース：ZENworks、アップグレード

説明：MS SQL データベースを使用している場合、アップグレードまたはデータベース作成中に接続の問題が発生し、次のエラーメッセージが表示されます。

```
org.hibernate.exception.JDBCConnectionException: Cannot
open connection
Caused by: java.sql.SQLException: I/O Error: Connection
reset
Caused by: java.net.SocketException: Connection reset
```


アクション： `select * from sys.configurations where name='user connections'` を実行します。

デフォルトの最大接続数は 32,767 です。これを「プライマリサーバの数 x 200」に調整できます。ユーザ接続の設定方法の詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/ms187030.aspx> を参照してください。

MS SQL サーバの CPU 使用率およびデータベースサーバの負荷が高くなっていないかどうかを確認します。さらに支援が必要な場合は、Micro Focus カスタマサポートにお問い合わせください。

プルーニングするインベントリレコードに対して間違った値が表示される

ソース： ZENworks、アップグレード

説明： アップグレードウィザードでプルーニングを選択した場合、削除対象に指定されたレコードの数が [Pre-prune summary (プルーニング前の概要)] ページに表示されます。

たとえば、合計 10,000,000 レコード中 8,000,000 レコードをプルーニング対象としてマークした場合、[number of records specified for deletion (削除対象に指定されたレコードの数)] フィールドに「8,000,000/10,000,000」と表示されます。

プルーニングが正常に完了した後で、アップグレードウィザードを再度起動してプルーニングを実行しようとする、[Database Pruning (データベースのプルーニング)] ページの [Total number of records found to be deleted (削除済みとして検出されたレコードの合計数)] フィールドに間違った値が表示されます。

たとえば、10,000,000 インベントリレコード中 8,000,000 インベントリレコードが削除された場合、[Total number of records found to be deleted (削除済みとして検出されたレコードの合計数)] フィールドに表示される値は 200,000 であるのが理想です。

現在のところ、間違った値が表示されます。そのため、削除済みのインベントリレコードに対して表示される値と、まだ削除されていないインベントリレコードに対して表示される値が一致しません。

アクション： 解決策はありません。

長い名前が付いたフォルダを削除するとエラーが発生する

ソース： ZENworks、アップグレード

説明： SQL Server データベースを使用する ZENworks ゾーンで、900 バイトを超える名前の付いた ZENworks オブジェクト (デバイスやフォルダなど) を削除しようとする、次のエラーが表示されます。

```
com.novell.zenworks.datamodel.exceptions.InternalDataModelException:  
org.hibernate.exception.GenericJDBCException: Operation failed. The index entry of  
length 912 bytes for the index 'idx_zENObject_Name' exceeds the maximum length of  
900 bytes.
```

アクション： ゾーン内の ZENworks オブジェクト名の長さが 900 バイトを超えていないことを確認します。詳細については、<https://technet.microsoft.com/en-us/library/ms191241%28v=sql.105%29.aspx> を参照してください。

MS SQL データベースの照合の非互換性のため、ZENworks スキーマがアップグレードに失敗する

ソース： ZENworks、アップグレード

説明： MS SQL サーバと Audit データベースの照合に互換性がない場合は、ZENworks スキーマがアップグレードに失敗します。

アクション： データベース (ZENworks と Audit) の両方に次の SQL クエリを実行して、データベースの照合に互換性があるかを確認します。

- ◆ データベース照合を取得するための SQL クエリ：

```
SELECT collation_name FROM sys.databases WHERE name = db_name();
```

- ◆ データベース列の照合を取得するための SQL クエリ：

```
select distinct collation_name from information_schema.columns where  
collation_name is not null;
```

アップグレードログとクエリ出力を Micro Focus カスタマサポートと共有して、さらに分析します。

アップグレード XML ログファイルが Google Chrome および Firefox で正しく表示されない

ソース： ZENworks、アップグレード

説明： Google Chrome および Firefox でアップグレード XML ログファイルを表示しようすると、ログファイルが正しく表示されませんでした。

アクション： ブラウザでログファイルを表示するには、次の設定アクションを実行します。

```
microfocus-zenworks-configure -c
```

```
ConvertLogToHTMLConfigureAction -DlogFile=<LogFilePath>
```

設定アクションにより、XML ログファイルが HTML に変換され、Web ブラウザでログファイルが開きます。

または、任意のテキストエディタを使用して、ログファイルを表示することもできます。

Linux プライマリサーバでは、レガシ Novell サービスが起動設定アクションに一覧表示される

ソース：ZENworks、アップグレード

説明：Linux プライマリサーバで ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードした後で、次のコマンドを実行すると、次のようになります。

```
novell-zenworks-configure -c Start
```

新しい Micro Focus サービスではなく、レガシ Novell サービスが一覧表示されます。サービスを開始、停止、または再起動しようとすると、例外エラーが表示されます。

アクション：Linux サーバからログアウトし、再びログインします。新しい端末ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

```
novell-zenworks-configure -c Start
```

新しい Micro Focus サービスが一覧表示されるようになります。サービスを開始、停止、または再起動できます。

ZENworks プライマリサーバのアップグレードが 'Zulu Platform x64 Architecture has stopped working' エラーで失敗する

ソース：ZENworks、アップグレード

説明：ZENworks 2020 または Update 1 Windows プライマリサーバを 2020 Update 2 にアップグレードする際に、次のエラーでアップグレードが失敗します。

```
Zulu Platform x64 Architecture has stopped working
```

考えられる原因：プログラムと競合するデータ実行防止 (DEP) 設定によってこのエラーが発生します。

アクション: [コントロールパネル]>[システム]>[システムの詳細設定]に移動して、サーバの DEP を確認します。[システムのプロパティ]ウィンドウで[詳細設定]をクリックし、[パフォーマンス]の下の[設定]をクリックします。[パフォーマンス オプション]ウィンドウで、[データ実行防止]をクリックします。

現在の設定に注意します。選択していない場合は、[重要な Windows のプログラムおよびサービスについてのみ有効にする]を選択します。

Windows サーバを再起動して、ZENworks プライマリサーバのアップグレードを再試行します。問題が解決しない場合は、Micro Focus サポートにお問い合わせください。

重要: アップグレードする前に設定が変更された場合は、値を元に戻してから Windows サーバを再起動してください。

3 アプライアンスのマイグレーション

ZENworks2020 アプライアンスを ZENworks 2020 Update 2 に移行するには、ZENworks 2020 アプライアンスから ZENworks のデータおよびアプライアンスのネットワーク設定をコピーして、ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスを展開し、ZENworks 2020 のデータを ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスに転送する必要があります。

マイグレーションの順序が重要になるのは、マルチアプライアンス ZENworks システムで組み込み PostgreSQL データベースを使用している場合のみです。組み込み Sybase データベースを使用している場合、まずこのデータベースを含むアプライアンスを移行し、その後他のアプライアンスを移行する必要があります。外部データベースを使用している場合は、任意の順序でアプライアンスを移行できます。

次の項では、ZENworks 2020 仮想アプライアンスを ZENworks 2020 Update 2 仮想アプライアンスに移行する方法について説明します。

- ◆ [53 ページの「前提条件」](#)
- ◆ [54 ページの「マイグレーションのための ZENworks 2020 アプライアンスの準備」](#)
- ◆ [55 ページの「ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスの展開と設定」](#)
- ◆ [56 ページの「ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスへの ZENworks 2020 データの移行」](#)
- ◆ [57 ページの「移行後」](#)
- ◆ [59 ページの「ZENworks 2020 Update 2 Lighthouse アプライアンスの ZENworks 2020 Update 2 FCS への更新」](#)
- ◆ [59 ページの「プライマリサーバの置き換え」](#)
- ◆ [59 ページの「プライマリサーバのアプライアンスへの移行」](#)
- ◆ [59 ページの「クリーンアップユーティリティの実行」](#)

前提条件

ZENworks 2020 Update 2 に移行する前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

- ◆ **マイグレーションプロセスの変更の確認** : ZENworks 2020 Update 2 リリースで導入された変更を確認してください。詳細については、[プライマリサーバのアップグレードまたはマイグレーションプロセスの変更](#)を参照してください。
- ◆ **マイグレーション順序の理解** : ゾーン内で Vertica が有効になっている場合は、詳細について、[Vertica 対応ゾーンのサーバのアップグレード](#)を参照してください。
- ◆ **DNS サーバが設定されている** : 移行するプライマリサーバに DNS サーバが設定されていることを確認します。また、ローカルマシンのホスト名が DNS で解決できる必要があります。

マイグレーションのための ZENworks 2020 アプライアンスの準備

マイグレーションのためにアプライアンスを準備するには、次の手順に従います。

- 1 ZDC を実行して、データベースのヘルスを確認します。ZENworks バージョンに応じて、Micro Focus ダウンロードサイトから ZDC をダウンロードします。詳細については、『ZENworks コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ZDC のダウンロードと抽出」を参照してください。
- 2 ZENworks 2020 アプライアンスの /vastorage ディスクに、少なくとも 90 GB の空き容量があることを確認します。
- 3 microfocus-zenworks-prerequisite.zip を実行して、アプライアンスマイグレーション用のゾーンプロパティを準備してコピーします。

注: ゾーンで Vertica が有効になっている場合、microfocus-zenworks-prerequisite.sh スクリプトは Vertica クラスタを停止し、Vertica に関連する機能はすべての Vertica 対応アプライアンスが ZENworks 2020 Update 2 に移行されるまで機能しません。したがって、マイグレーションプロセスを開始する直前に microfocus-zenworks-prerequisite.sh を実行することをお勧めします。

- 3a ZENworks 2020 Update 2 ダウンロードサイトから microfocus-zenworks-prerequisite.zip をダウンロードします。
 - 3b microfocus-zenworks-prerequisite.zip を抽出します。
 - 3c 各 ZENworks 2020 アプライアンスプライマリサーバ上で microfocus-zenworks-prerequisite.sh ファイルを一時的な場所にコピーします。
 - 3d ZENworks 2020 アプライアンスプライマリサーバにルートユーザとしてログインします。
 - 3e `chmod microfocus-zenworks-prerequisite.sh` コマンドを実行して、実行権限を追加します。
 - 3f `sh microfocus-zenworks-prerequisite.sh` コマンドを実行します。
- 4 ZENworks 2020 アプライアンスの電源をオフにします。
 - 5 (オプション) ZENworks 2020 アプライアンスを、コンテンツリポジトリ用の追加または外部のディスクで設定した場合、ZENworks 2020 Update 2 アプライアンス上にディスクをマウントするようにしてください。

たとえば、`/dev/sdb1` を `/var/opt/microfocus/zenworks` にマウントします。

注: 仮想ディスクに、ZENworks 2020 以前のバージョンのスナップショットがある場合は、スナップショットを削除して、ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスにディスクをコピーする際に仮想ディスク (vastorage) にスタンダードアロンファイルのみが含まれるようにしてください。

6 ZENworks 2020 アプライアンスの仮想ディスク (vstorage) をコピーします。

ZENworks 2020 アプライアンス仮想ディスクをコピーして、それを ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスにアタッチすることをお勧めします。ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスで同じフォルダ構造が維持されていることを確認します。

注 : microfocus-zenworks-prerequisite.sh が適切に実行されないか、ボリュームが ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスにコピーされない場合は、エラーメッセージが表示されます。

ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスの展開と設定

ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスを展開して既存のアプライアンスを移行してから、ZENworks 2020 データとネットワーク設定を使用して ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスを設定する必要があります。

重要 : ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスは、ZENworks 2020 アプライアンスと同じネットワークでホストする必要があります。

- 1 『[ZENworks Appliance Deployment and Administration Reference](#)』の「[Deploying the Appliance](#)」の指示に従ってアプライアンスを展開します。新しいハードディスクをアタッチをしないでください。
この時点ではアプライアンスの電源をオンにしないでください。
- 2 54 ページの「[マイグレーションのための ZENworks 2020 アプライアンスの準備](#)」のステップ 6 でコピーされたマイグレーションハードディスク (/vstorage) を ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスにアタッチします。
- 3 ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスの電源をオンにして、資格情報画面が表示されるまで待ちます。

- 4 ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスの「root」および「zenadmin」のパスワードを指定します。

Appliance Configuration ユーティリティにより、ZENworks 2020 のデータから ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスの識別情報とネットワーク詳細が自動的に入力され、アプライアンスのブートが続行されます。プロセスが完了すると、アプライアンスのコンソールに URL が表示されます。

- 5 ZENworks 2020 アプライアンスで外部コンテンツリポジトリを使用していた場合、対応するディスクを ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスにアタッチします。

外部ディスクを指定するには、次の手順を実行します。

- 5a ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスを再起動した後、root としてアプライアンスにログインし、ZENworks サービスを停止します。

アプライアンスが組み込み PostgreSQL をホストする場合は、PostgreSQL サービス (zenpostgres) が実行されている必要があります。次のコマンドを実行して、PostgreSQL サービスのステータスを確認します。

```
systemctl status zenpostgres
```


- 5b ディスクパーティションを元の構造で ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスにマウントします。
 - 5c (条件付き) 共有コンテンツリポジトリを古い Novell パスからアンマウントし、リポジトリを新しい Micro Focus パス、つまり /var/opt/microfocus/zenworks/content-repo にマウントしていることを確認します。
 - 5d ハードディスクがマウントされたら、/etc/fstab がマウント済みのパーティションで正しく更新されていることを確認してください。YaST パーティショナを使用して、ディスクパーティションを正しい ZENworks ディレクトリにマウントすることができます。
コンテンツリポジトリのマウントについては、『ZENworks プライマリサーバおよびサテライトリファレンス』の「*Creating a Permanent Mount (永久マウントの作成)*」を参照してください。
 - 5e 新しいマウント済みのディレクトリに必要な許可があることを確認してください。許可を変更するには、permissions.sh スクリプトを実行します。
permissions.sh は、/opt/microfocus/zenworks/bin/ にあります。
- 6 コンソールに表示される URL のメモを取り、次のタスク [ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスへの ZENworks 2020 データの移行](#) を続行します。

ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスへの ZENworks 2020 データの移行

ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスを展開および設定したら、ZENworks 2020 のデータをアプライアンスに移行できます。

- 1 サポートされているブラウザで、アプライアンスのコンソールに表示される URL を起動します。
例 : `https://<FQDN>:9443`
- 2 [55 ページのステップ4](#) で設定した「root」または「zenadmin」の資格情報を使用して、ZENworks アプライアンスにログインします。
- 3 マイグレーション要件がすべて満たされていることを確認し、**[I have verified that all necessary steps have been completed (必要な手順がすべて完了していることを確認しました)]** チェックボックスをオンにし、**[次へ]** をクリックして ZENworks 管理ゾーン資格情報画面を表示します。
マイグレーション要件が一部満たされていない場合は、**[キャンセル]** をクリックし、要件をすべて満たしてから、もう一度 ZENworks アプライアンスコンソールにログインして、マイグレーションを完了します。

重要: アプライアンスが 2 番目のプライマリサーバで、データベースが組み込み PostgreSQL である場合、1 番目のプライマリサーバの PostgreSQL サービス (zenpostgres) が開始されることを確認する必要があります。

- 4 ZENworks 管理者資格情報を指定して、ZENworks 管理ゾーンにアクセスします。

注：アプライアンスの移行時には、管理者ユーザ名の大文字と小文字を区別する場合があります。詳細については、『ZENworks 2020 README』を参照してください。

- 5 ZENworks のマイグレーションが開始されます。これには数分かかる場合があります。マイグレーションプロセスは、ブラウザを閉じたり、セッションがタイムアウトしたりしても、バックグラウンドで続行されます。
- 6 ZENworks のマイグレーションが終了したら、[閉じる] をクリックして、ZENworks アプライアンス環境設定のサマリ画面を表示します。
- 7 [ZENworks コントロールセンターを開く] をクリックして、移行されたデータを表示し、ZENworks システムの管理を続行します。

移行後

- ◆ アプライアンスのマイグレーション後、ZENworks サーバデータは、Micro Focus ファイルパスで利用できるようになります。ZENworks サーバサービスは、Micro Focus 命名規則に従います。つまり、Micro Focus がサービス名のプレフィックスとして付きます。ただし、ZENworks エージェントデータは Novell ファイルパスで利用可能であり、関連するエージェントサービスは Novell 命名規則に従います。つまり、Novell がサービス名のプレフィックスとして付きます。これらの変更されたファイルパスとサービス名を確認するには、[名前変更されたサービスとファイルの場所の表示](#)を参照してください。
- ◆ ZDC を実行して、移行された ZENworks 2020 Update 2 アプライアンスシステムを検証します。
詳細については、『ZENworks コマンドラインユーティリティ』の「ZENworks 診断センター」を参照してください。
- ◆ すべての ZENworks サービスが実行されていることを確認します：microfocus-zenworks-configure -c SystemStatus
- ◆ さまざまな ZENworks コンポーネントが適切に機能できるように、ZooKeeper サービスが常に稼働していることを確認します。ZooKeeper サービスのステータスを確認するには、ZCC の診断ページを参照してください。ZooKeeper コンポーネントの詳細については、『ZENworks Primary Server and Satellite Reference』の「ZENworks Server」を参照してください。

ゾーン内のプライマリサーバがファイアウォール制限により ZooKeeper サービスと通信できない場合は、次の設定アクションを実行して、ZooKeeper ポートを開くことができます。また、ファイアウォールが他のプライマリサーバからポート 6789 の ZooKeeper サービスへのクライアント接続を許可していることを確認する必要があります。ゾーン内のプライマリサーバが ZooKeeper サービスにアクセスできない場合は、ポートを開くため、ZooKeeper が有効になっているサーバで次の設定アクションを実行できます。

```
microfocus-zenworks-configure -c ClusterFirewallConfigureAction -  
Doperation=add -Dservice=zookeeper
```

ただし、DMZ 内のプライマリサーバが企業ネットワーク内の ZooKeeper サービスにアクセスできない場合は、企業ファイアウォールでポート 6789 を手動で開く必要があります。

ZooKeeper ポートの詳細については、『ZENworks 2020 TCP and UDP Ports』を参照してください。

名前変更されたサービスとファイルの場所の表示

正常にアップグレードが完了した後で、ZENworks 2020 Update 2 リリースで導入された名前変更されたサービスとファイルの場所を表示できるようになりました。

- [58 ページの「ZENworks サーバデータの新しいファイルパス」](#)
- [58 ページの「名前変更された設定アクション」](#)
- [58 ページの「名前変更されたサービス」](#)

ZENworks サーバデータの新しいファイルパス

例：

- **ログファイル**：ログファイルは新しい Micro Focus パス (/var/opt/microfocus/log/zenworks) で利用できるようになります。ただし、ログファイルは、古い Novell パス (/var/opt/novell/log/zenworks) にも保持されます。
- **設定ファイル**：ZENworks サーバ専用の設定ファイルは、新しい Micro Focus パス (/etc/opt/microfocus/zenworks) で利用できるようになります。ただし、サーバとエージェント両方の設定ファイルは、古い Novell パス (/etc/opt/novell/zenworks) に保持されます。
- **ライブラリ**：ZENworks サーバ専用のライブラリは新しい Micro Focus パス (/opt/microfocus/zenworks) で利用できるようになります。ただし、サーバとエージェント両方のライブラリは、古い Novell パス (/opt/novell/zenworks) に保持されます。

名前変更された設定アクション

設定アクションが Novell から Micro Focus に名前変更されました。たとえば、設定アクション novell-zenworks-configure -c CalibrateMemoryConfigureAction は、microfocus-zenworks-configure -c CalibrateMemoryConfigureAction に名前変更されました。Novell 命名規則に従う設定アクションは、このリリースでは非推奨となり、Micro Focus 命名規則に従う設定アクションを利用できるようになります。

名前変更されたサービス

ZENworks サーバサービスは Novell から Micro Focus に名前変更されました。たとえば、novell-zenserver.service は、microfocus-zenserver.service に名前変更されます。同様に、novell-zenloader.service や novell-zenjoinproxy.service などのサービスは、それぞれ microfocus-zenloader.service や microfocus-zenjoinproxy.service に名前変更されます。

Novell 命名規則に従う特定のサービス、特に ZENworks エージェントに関連するサービスは引き続き適用されます。

したがって、systemctl コマンドを使用してサービスを開始または停止する際には、コマンドで名前変更されたサービスを使用していることを確認してください。

ZENworks 2020 Update 2 Lighthouse アプライアンスの ZENworks 2020 Update 2 FCS への更新

注 : ZENworks 2020 Update 2 Lighthouse アプライアンスビルドを Microsoft Hyper-V、XEN on SLES、または Citrix XenServer に展開していて、ZENworks 2020 Update 2 FCS ビルドに更新する場合は、Micro Focus カスタマサポートに連絡して、「[Updating the ZENworks 2020 Update 2 Lighthouse build to ZENworks 2020 Update 2 FCS](#)」で説明されている手順に従ってください。

プライマリサーバの置き換え

ゾーン内の最初のプライマリサーバは 2 番目のプライマリサーバと置き換えるか、または既存のプライマリサーバを新しいプライマリサーバと置き換えることができます。プライマリサーバの置き換えに関する詳細については、『[ZENworks Disaster Recovery Reference](#)』の「[Replacing Primary Servers](#)」を参照してください。

プライマリサーバのアプライアンスへの移行

既存の Windows または Linux プライマリサーバは、アプライアンスサーバに移行することができます。詳細については、『[ZENworks Primary Server and Satellite Reference](#)』の「[Moving from a Windows or Linux Primary Server to Appliance](#)」を参照してください。

クリーンアップユーティリティの実行

アプライアンスのマイグレーション後、ZENworks サーバ設定が古い Novell ファイルパスから新しい Micro Focus ファイルパスにコピーされます。ただし、ZENworks サーババイナリおよび古いファイルパスの古い設定は、アップグレードプロセス中に保持されます。アップグレードされたバージョンの ZENworks サーバが期待どおりに動作しているか確認したら、ビルドに付属しているクリーンアップユーティリティを実行して、保持されているサーバデータを削除できます。詳細については、「[Running Cleanup Utility on a Linux or Appliance Server](#)」を参照してください。

4 ZENworks 2020 Update 2 へのサテライトと管理対象デバイスの更新

管理対象デバイスとサテライトサーバを ZENworks 2020 Update 2 に更新するには、次の各セクションを参照してください。

- 61 ページの「サテライトサーバまたは管理対象デバイスを更新するための前提条件」
- 62 ページの「ZENworks 2017 デバイスのアップグレードのサポート」
- 62 ページの「サテライトサーバおよび管理対象デバイスの更新」

サテライトサーバまたは管理対象デバイスを更新するための前提条件

サテライトサーバまたは管理対象デバイスを、サポートされている ZENworks バージョンから ZENworks 2020 Update 2 に更新する前に、次のタスクを完了する必要があります。

注: サポートされているバージョンの詳細については、『ZENworks 2020 Update 2 システム要件』を参照してください。

- デバイスが ZENworks 2020 Update 2 の最小システム要件を満たすことを確認します。
管理対象デバイスの要件の詳細については、『ZENworks 2020 Update 2 システム要件』を参照してください。
- Sybase データベースを使用している場合は、データベースを Sybase から PostgreSQL に移行してください。
詳細については、『Database Migration from Sybase to PostgreSQL』を参照してください。
- Microsoft .NET 4.5 以上のフレームワークとその最新の更新がデバイスにインストールされ、実行されていることを確認します。
- Windows インストーラ 4.5 以上のバージョンがインストールされていることを確認します。
- ゾーン内のすべてのプライマリサーバが ZENworks 2020 Update 2 にアップグレードされたことを確認します。
- ステージごとにシステム更新を展開するように選択する場合は、作成するステージに少なくとも 1 つのステージメンバー (個々のデバイスとデバイスを含むグループ) が含まれるようにします。
- ZCC の使用可能なシステム更新リストに Update for ZENworks 2020 Update 2 が表示されていることを確認します。使用可能でない場合は、次のコマンドを実行して更新をインポートします。

```
zman sui <install media\ISO>:\Common
```

- ◆ Windows XP は ZENworks 2017 以降からサポートされていないため、Windows XP を使用しているエージェントは、ZENworks 11 にインストールしておく必要があります。
- ◆ ZENworks 2020 Update 2 以降から、サテライトサーバとして 32 ビットエージェントを昇格することはサポートされていません。

ZENworks 2017 デバイスのアップグレードのサポート

ZENworks 2017 の管理対象デバイスまたはサテライトサーバがネットワーク内にあり、デバイスを新しい ZENworks 2020 Update 2 管理ゾーンに登録して、それらを ZENworks 2020 Update 2 に自動的にアップグレードできるようにするには、ZENworks 2020 Update 2 インストールメディアからゾーンに ZENworks 2020 システム更新をインポートする必要があります。

ZENworks 2020 以降から、サテライトサーバとして 32 ビットデバイスを昇格することはサポートされていません。

サテライトサーバおよび管理対象デバイスの更新

サテライトサーバまたは管理対象デバイスを更新するには、システム更新機能を使用します。詳細については、『[ZENworks System Updates Reference](#)』を参照してください。

管理対象デバイスに ZENworks 更新を展開する際に問題が発生したら、次のログファイルを参照してください。

Windows: `installation_path\novell\zenworks\logs\system-update\502000000fc5000000002019100412\system-update.log`

Linux: `/var/opt/novell/log/zenworks/system-update/502000000fc5000000002019100412/system-update.log`

アップグレードログファイルのパス内の 502000000fc5000000002019100412 は、システム更新の GUID を示しています。

注

- ◆ ZENworks Patch Management がインストールされている ZENworks の古いバージョンから更新する場合、次の Patch Management サブスクリプションが更新されるまで、新しく追加されたデバイスで DAU が失敗する可能性があります。

サブスクリプションによって DAU バンドルが更新され、同様にバージョンが増えると、この問題は解決します。既存の ZENworks のエージェントは、すでに analyze.exe モジュールがインストールされているので、この問題の影響を受けません。そのため、それらのエージェントは引き続き古い DAU を実行し、サブスクリプションサービスによって DAU バンドルが更新されたときに、更新されたパッチエージェントを受け取ります。

- ◆ 更新の実行前にサテライトサーバを降格する場合は、更新を続行する前に、正常に降格されていることを確認する必要があります。
-

5 Vertica 対応ゾーンのサーバのアップグレード

このセクションは、以前の ZENworks リリースの一部としてゾーンで Vertica を設定している場合に、サーバを ZENworks 2020 Update 2 バージョンにアップグレードする前に留意しておく必要のあるいくつかのベストプラクティスと重要な情報を提供することを目的としています。

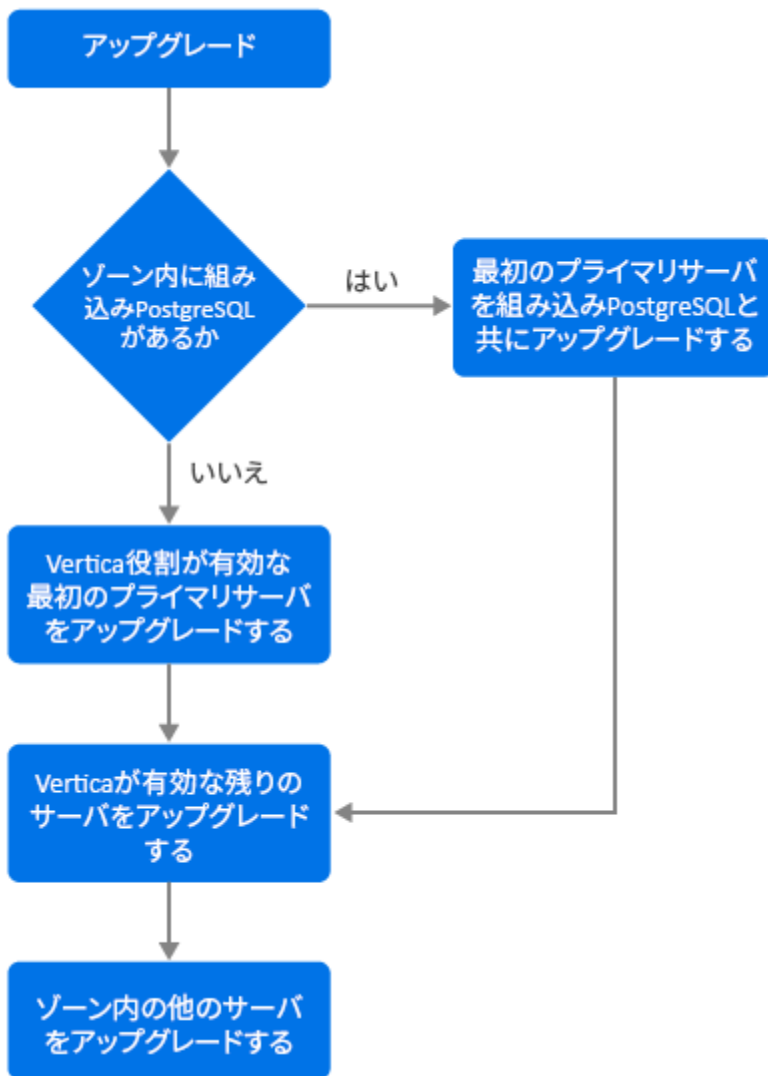
ベストプラクティス

Vertica が有効になっているサーバを最初にアップグレードしてから、ゾーン内の他のプライマリサーバをアップグレードすることをお勧めします。ただし、組み込み PostgreSQL データベースを使用している場合は、最初にデータベースをホストするサーバをアップグレードしてから、Vertica が有効になっているサーバをアップグレードする必要があります。

Vertica 対応のゾーンでのアップグレード順序について

このガイドで先述しているように、ゾーン内に複数のサーバがあり、管理ゾーンで初めてアップグレードを実行する場合は、一度に1つのプライマリサーバのみをアップグレードすることができ、このサーバは最初のプライマリサーバと見なされます。追加のプライマリサーバの後続のアップグレードは、並行して実行できます。

サーバをアップグレードする順序は、次に示すとおりです。



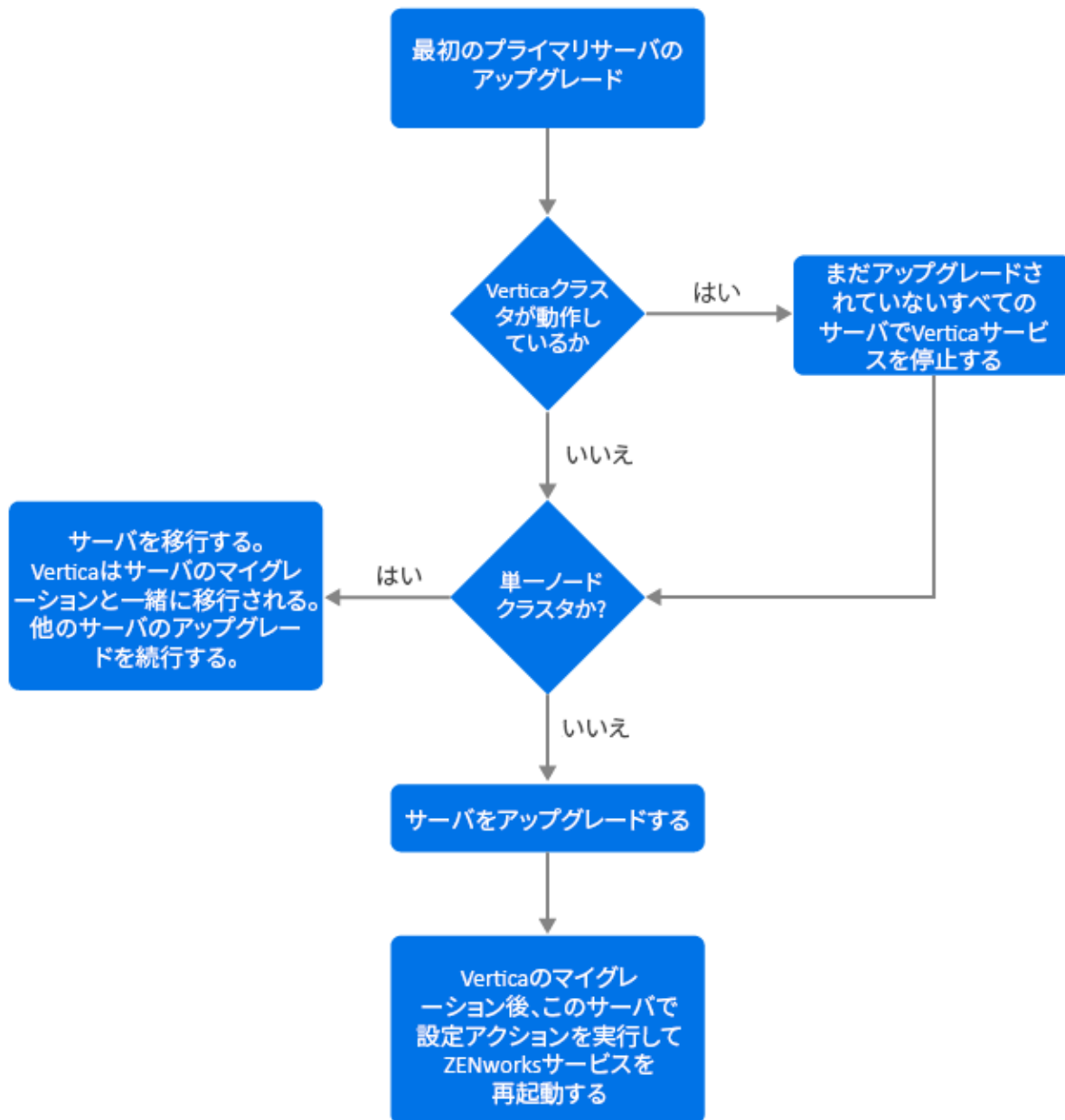
1. 組み込み PostgreSQL がゾーン内に存在する場合は、組み込み PostgreSQL データベースがあるサーバを最初にアップグレードしてから、手順 3 に進む必要があります。
2. (条件付き) 組み込み PostgreSQL がゾーンに存在しない場合は、Vertica 役割が有効になっているアプライアンスサーバを最初にアップグレードすることをお勧めします。
3. Vertica 役割が有効になっている他のサーバがある場合はアップグレードします。
4. ゾーンの残りのサーバをアップグレードします。

前提条件

ゾーン内のプライマリサーバをアップグレードする前に、アップグレードする他のすべてのプライマリサーバで、Vertica サービスを含む ZENworks サービスが停止していることを確認してください。Vertica が有効になっているすべてのサーバ上で Vertica サービスを停止するには、『Vertica Reference Guide』を参照してください。

最初のプライマリサーバのアップグレード

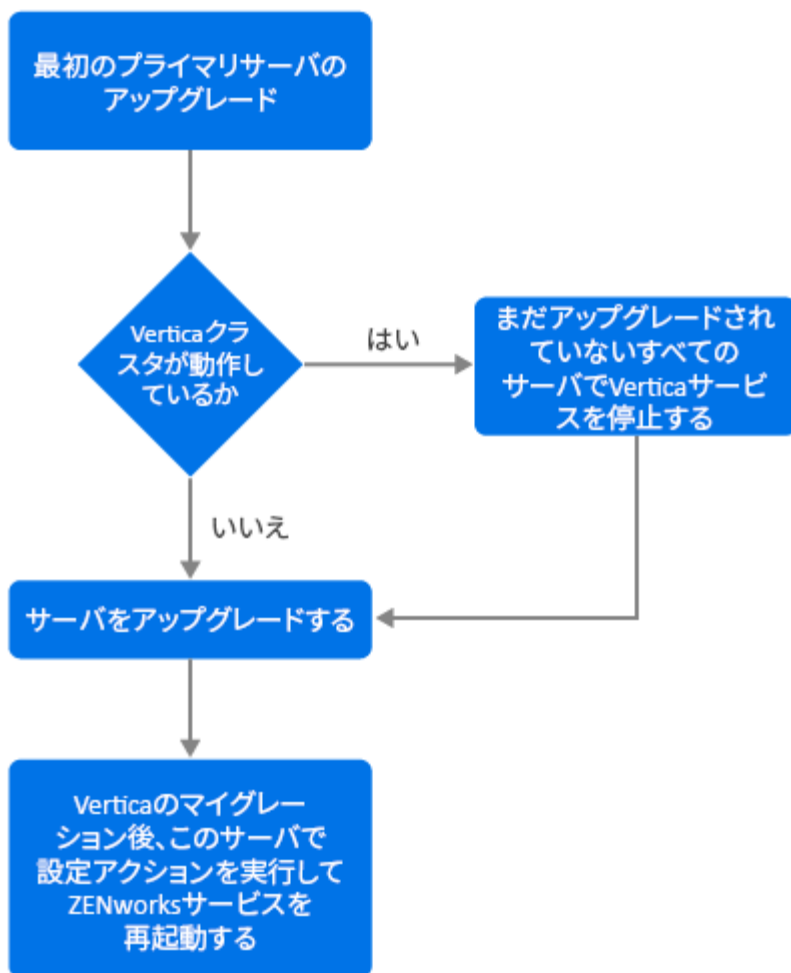
最初のプライマリサーバがアプライアンスサーバである場合



1. サーバをアップグレードする前に、「前提条件」セクションを必ず参照してください。

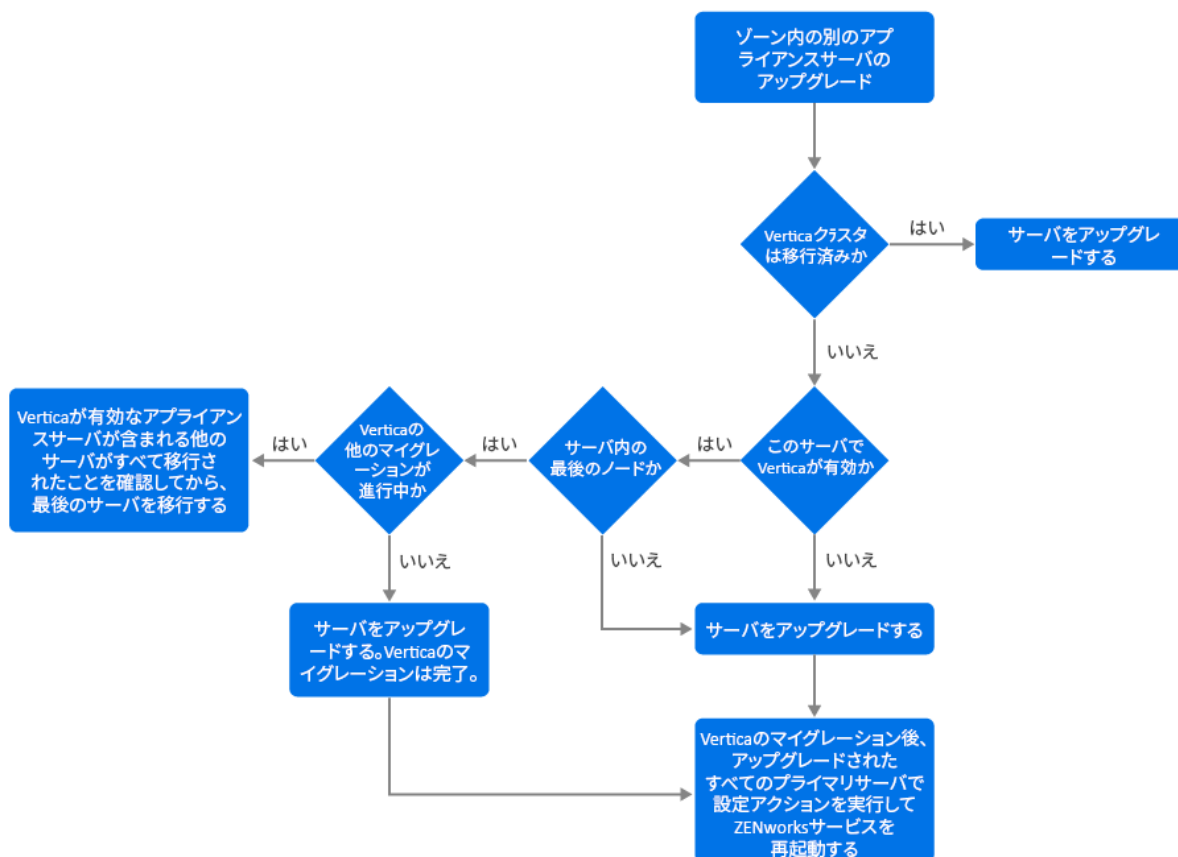
2. 最初のプライマリサーバが Vertica 役割が有効になっているアプライアンスサーバの場合：
 - ◆ サーバが Vertica が有効になっている唯一のサーバである場合は、アプライアンスサーバを移行します。詳細については、[アプライアンスのマイグレーション](#)を参照してください。アプライアンスサーバと Vertica データベースが移行されます。手順 4 に進みます
 - ◆ アプライアンスサーバが Vertica クラスターのサーバの 1 つである場合は、このサーバを移行します。詳細については、[アプライアンスのマイグレーション](#)を参照してください。マイグレーション後、手順 3 に進みます。
3. アップグレード後、ゾーンは Vertica が有効になっているすべてのサーバがアップグレードされるまで、制限された機能で実行されます。Vertica が有効になっているすべてのサーバがアップグレードされた後で、設定アクション `microfocus-zenworks-configure-cStart` を実行して、アップグレードした最初のプライマリサーバで ZENworks サービスを再起動します。
4. これで、ゾーン内の他のサーバのアップグレードを続行できます。

最初のプライマリサーバがアプライアンスサーバではない場合



1. サーバをアップグレードする前に、「前提条件」セクションを必ず参照してください。
2. 最初のプライマリサーバが組み込み PostgreSQL サーバのある Windows または Linux サーバである場合は、サーバをアップグレードして、手順 3 に進みます。サーバのアップグレードの詳細については、[Linux と Windows プライマリサーバの ZENworks 2020 Update 2 へのアップグレード](#)を参照してください。
3. これで、Vertica が有効になっている、ゾーン内の他のサーバのアップグレードを続行できます。
4. アップグレード後、ゾーンは Vertica が有効になっているすべてのサーバがアップグレードされるまで、制限された機能で実行されます。Vertica が有効になっているすべてのサーバをアップグレードした後で、設定アクション `microfocus-zenworks-configure -c Start` を実行して、アップグレードした最初のプライマリサーバで ZENworks サービスを再起動します。

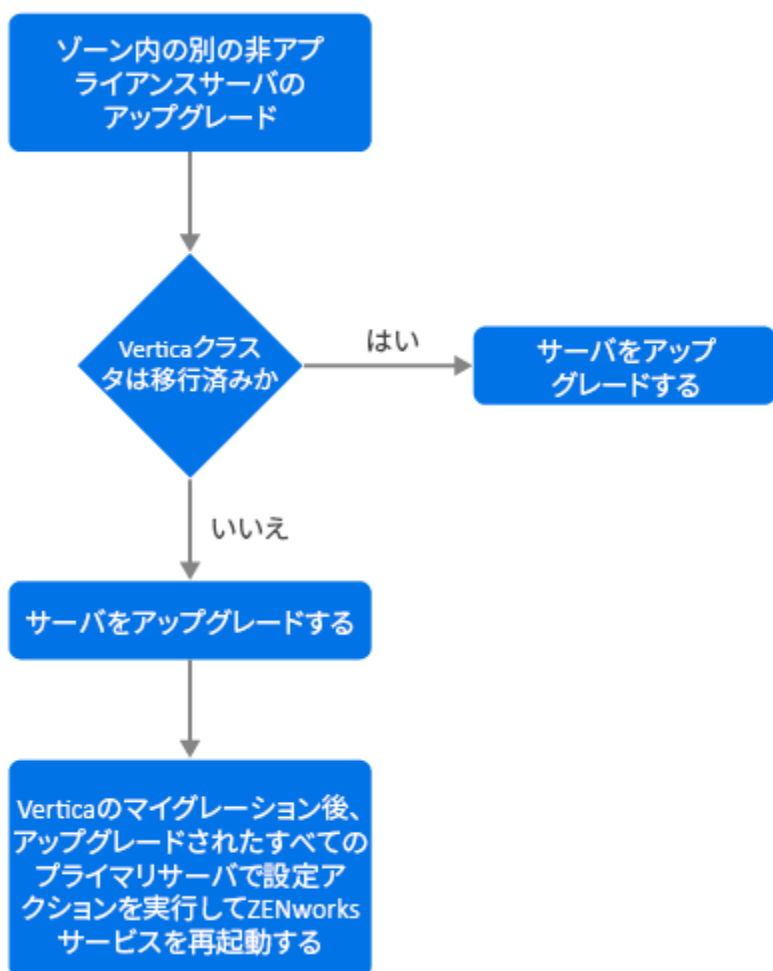
ゾーン内の他のサーバのアップグレード (アプライアンス)



1. Vertica クラスタの一部であったすべてのサーバがすでに移行されている場合は、残りのアプライアンスサーバを移行して、手順 5 に進みます。サーバの移行の詳細については、[アプライアンスのマイグレーション](#)を参照してください。Vertica クラスタの一部であるすべてのサーバがまだ移行されていない場合は、手順 2 に進みます。
2. 移行するアプライアンスサーバで Vertica 役割が有効になっていない場合は、サーバを移行して手順 4 に進みます。サーバの移行の詳細については、[アプライアンスのマイグレーション](#)を参照してください。アプライアンスサーバで Vertica 役割が有効になっている場合は、手順 3 に進みます。
3. 移行するアプライアンスサーバが Vertica クラスタの一部である場合：
 - ◆ このサーバはクラスタの最後のノードである：クラスタ内の他のサーバのマイグレーションが完了するのを待つ必要があります。これらのサーバのアプライアンスマイグレーションが進行中の場合は、プロセスが完了するのを待ってから最後のノードを移行します。Vertica が有効になっている他のサーバが正常に移行された後で、最後のノードを移行し、手順 4 に進みます。サーバの移行の詳細については、[アプライアンスのマイグレーション](#)を参照してください。
 - ◆ このサーバは最後のノードではない：サーバを移行して、手順 4 に進みます。サーバの移行の詳細については、[アプライアンスのマイグレーション](#)を参照してください。

- Vertica クラスタの最後のノードがアップグレードされた後で、設定アクション `microfocus-zenworks-configure-c Start` を実行して、今までにアップグレードされたすべてのプライマリサーバで ZENworks サービスを再起動します。
- ゾーン内に残りのサーバがある場合は、アップグレードを続行します。

ゾーン内の他のサーバのアップグレード (アプライアンス以外)



- Vertica が有効になっているすべてのアプライアンスサーバがすでに移行されている場合は、Windows または Linux サーバ (アプライアンス以外) をアップグレードして、手順 4 に進みます。サーバのアップグレードの詳細については、[Linux と Windows プライマリサーバの ZENworks 2020 Update 2 へのアップグレード](#)を参照してください。
- Vertica が有効になっているサーバがまだ移行されていない場合は、Windows または Linux サーバ (アプライアンス以外) をアップグレードして、手順 3 に進みます。

3. アップグレード後、ゾーンは Vertica が有効になっているすべてのサーバがアップグレードされるまで、制限された機能で実行されます。Vertica クラスタの最後のノードがアップグレードされた後で、設定アクション `microfocus-zenworks-configure-c Start` を実行して、今までにアップグレードされたすべてのプライマリサーバで ZENworks サービスを再起動します。つまり、サーバ 1、サーバ 2、およびサーバ 3。
4. ゾーン内に残りのサーバがある場合は、アップグレードを続行します。

例

シナリオ 1

組み込みデータベースを使用するゾーンには次の 5 つのプライマリサーバがあります。

- サーバ 1 は PostgreSQL が組み込まれた Linux サーバです
- サーバ 2、3、4 は、Vertica 役割が有効になっているアプライアンスサーバです
- サーバ 5 は Linux サーバです

手順

1. 前提条件として、Vertica クラスタが停止している必要があります。クラスタを停止するには、Vertica が有効になっているすべてのサーバで Vertica サービスを停止する必要があります。詳細については、『Vertica Reference Guide』を参照してください。
2. サーバ 1 をアップグレードします。これは組み込み PostgreSQL が含まれているため、アップグレードする必要がある最初のプライマリサーバです。
3. Vertica クラスタの一部である、サーバ 2 とサーバ 3 を移行します。
4. サーバ 4 を移行します。これは Vertica クラスタの最後のノードであるため、サーバ 2 とサーバ 3 が正常に移行された後でのみ、このサーバを移行する必要があります。
5. 設定アクション `microfocus-zenworks-configure-c Start` を実行して、今までにアップグレードされたすべてのプライマリサーバ (サーバ 1、サーバ 2、サーバ 3) で ZENworks サービスを再起動します。
6. サーバ 5 をアップグレードします。

シナリオ 2

外部データベースを使用するゾーンには次の 3 つのプライマリサーバがあります。

- サーバ 1 は Vertica が有効になっているアプライアンスサーバです
- サーバ 2 はアプライアンスサーバですが、Vertica 役割が有効になっていません
- サーバ 3 は Windows サーバです

手順

1. サーバ 1 を移行します。これは Vertica 役割がこのサーバで有効になっているため、アップグレードする必要がある最初のプライマリサーバです。
2. サーバ 2 と 3 を移行してアップグレードします。

A マニュアルの更新

このセクションでは、本マニュアル『Upgrade for ZENworks Configuration Management』で行われたマニュアル内容の変更に関する情報を示します。ドキュメントの最新の更新情報をここで入手できます。

この製品のドキュメントは、HTML および PDF の 2 つの形式で Web にて提供されています。HTML および PDF ドキュメントにはこのセクションに一覧表示された変更が反映され、最新の状態に保たれています。

使用している PDF ドキュメントが最新のものであるかどうかを知る必要がある場合、PDF ドキュメントの表紙の発行日を参照してください。

このドキュメントは次の日付に更新されました。

2021 年 5 月 : ZENworks 2020 Update 2

| 場所 | 変更 |
|--|---|
| 7 ページの第 1 章「プライマリサーバのアップグレードまたは移行」 | Windows、Linux、およびアプライアンスサーバの一般的なアップグレード情報を提供する新しい章が導入されました。 |
| 17 ページの第 2 章「Linux と Windows プライマリサーバの ZENworks 2020 Update 2 へのアップグレード」 | 17 ページの「前提条件」: 前提条件を更新しました。 37 ページの「クリーンアップユーティリティの実行」: 新しい章を導入しました。 |
| 53 ページの第 3 章「アプライアンスのマイグレーション」 | 53 ページの「前提条件」: 前提条件を更新しました。 54 ページの「マイグレーションのための ZENworks 2020 アプライアンスの準備」: 手順 3 を更新しました。 57 ページの「移行後」: このセクションを更新しました。 |
| 63 ページの第 5 章「Vertica 対応ゾーンのサーバのアップグレード」 | 新しい章を導入しました |

